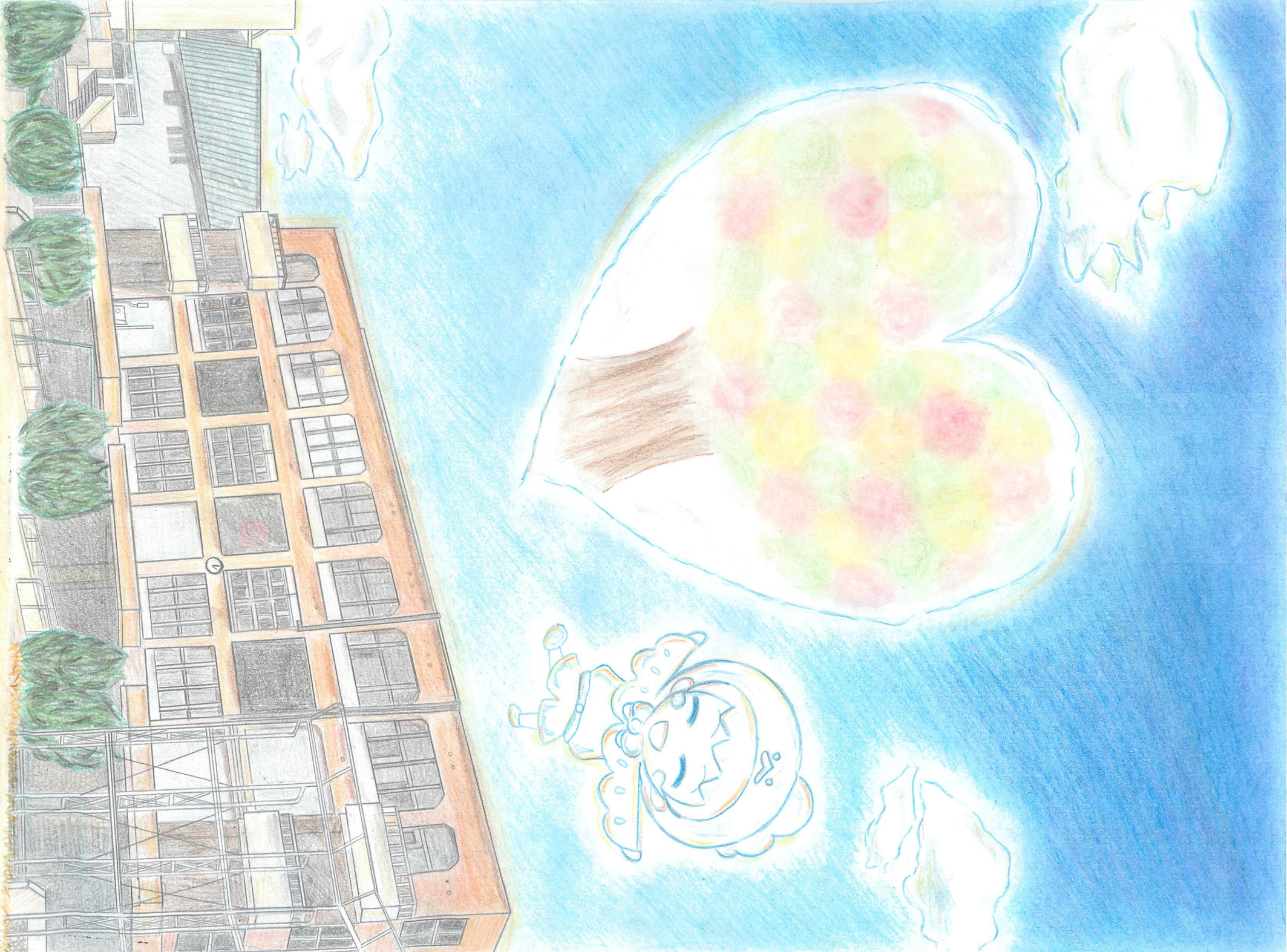




インターナショナルセーフスクール認証申請書

I
S
S

愛（あい）を持って
親切で安心・安心な
三中を創ろう！

大阪府

松原市立松原第三中学校



目次

第1章 松原第三中学校の概要

- 1 外観
- 2 沿革
- 3 育てたい子ども像
- 4 教育目標
- 5 教職員と在籍生徒数
- 6 日課表

第2章 インターナショナルセーフスクールの取り組み経緯

- 1 取組の背景
- 2 セーフコミュニティとの連携
- 3 三中 ISS マスコットキャラクター

第3章 本校の状況と課題抽出、重点目標設定

- 1 外傷の発生状況（外傷的側面）
- 2 人間関係（心的側面）
- 3 地域での安全（地域的側面）
- 4 重点目標の設定

第4章 8つの指標に基づいた取り組み

- 指標1 協働を基盤とした安全向上に取り組む運営体制が整備されている
- 指標2 取り組みの方針(政策)は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会の方向性と一致している
- 指標3 すべての性別、年齢(学年)、環境、状況をカバーする長期かつ継続的な予防活動をしている
- 指標4 ハイリスクのグループ・環境を対象としたプログラムがある
- 指標5 根拠(エビデンス)に基づいた取り組みが行われている
- 指標6 外傷の発生や原因などを記録するプログラム(仕組み)がある
- 指標7 学校政策、プログラム、そのプロセス、変化による効果を測定・評価する方法がある
- 指標8 地域内、国内、国際的なネットワークに継続的に参加する

第5章 現在の問題点と今後の方向性

第1章 松原第三中学校の概要

本校は、大阪府松原市のほぼ中央に位置し、校区の中央を西除川と近畿日本鉄道南大阪線が横切る環境にある。布忍駅周辺からなる商業地と、さらにその周辺に広がる住宅地が混在する校区である。

松原市には合計7校の中学校があり、本校区は松原市全体の約15%を占めている。本校区には中央小学校、布忍小学校の2小学校があり、本校は2校から3学年で約400人の生徒が通学している。本校区は、西部には大池公園、布忍神社、新町公民館、人権交流センターはーとビューがあり、東部には中央公園、市民プール、図書館、文化会館、市民体育館がある。また、その隣には大型スーパーが新設された。

1 外観



2 沿革

- 1947年 布忍中学校として創立
- 1963年 松原第三中学校に名称変更
- 1970年 現在の校舎完成
『新しい三中づくり』がスタート

『新しい三中づくり』

- ・ 人権尊重の教育を柱にする
- ・ 非行と低学力を克服する
- ・ 地域を大切に取組みを推進する

『新しい三中づくり』のスローガンは、本校の精神として現在も受け継がれており、以下の「**3 育てたい子ども像**」、「**4 三中の教育目標**」につながっている。

3 育てたい子ども像

- 自分の考えに自信を持って語ることができる
- 当たり前のことを当たり前に行える
- 違いを認め合い、人のいたみや思いが分かる
- 家族や地域に対して、自覚と誇りを持って行動する
- 将来への夢や展望を持ち、課題解決に努力する

本校は、社会の経済状況が大きく変化する中において、人権・同和教育を基盤にして、集団づくりに取り組んできた。

今後一層、すべての生徒に対して、学力にこだわるとともに、人権感覚をはじめ、規範意識、善悪の判断、国際感覚等、総合的な人間力の育成に努める必要がある。そこで、上記5点を『育てたい子ども像』として定めている。

4 三中の教育目標

優しさと厳しさ 誇りある三中の創造

具体的な重点課題

- 学力向上と課題を克服する力の育成を図る
- 豊かな人間性を育み、暖かい規律ある集団をつくる
- 家庭、地域と協働し、社会性や自立心を養う

5 教職員と在籍生徒数

2017 年度 教職員数

	教職員数
校長	1
教頭	1
教諭	34
栄養教諭	1
栄養士	1
事務	2
技能職員	1
教育支援員	1
介助員	1
スクールカウンセラー	1

2017 年度 在籍生徒数

(単位：人)

	学級数	生徒数		
		男	女	合計
1 年生	4	77	76	153
2 年生	4	71	68	139
3 年生	4	83	65	148
支援学級	4	14	7	21
合計	16	245	216	461

※「支援学級」は、特別支援学級であり、教育上特別に支援が必要な生徒のための学級である。

2017 年現在の学級数は、1 学年 4 学級、2 学年 4 学級、3 学年 4 学級の、支援学級 4 学級で、計 16 学級である。

5 年間の生徒数・学級数の推移

(単位：人)

	学級数	支援学級数	生徒数
2013年度	19	4	516
2014年度	18	3	512
2015年度	17	3	493
2016年度	16	3	471
2017年度	16	4	461

生徒数は、年々減少傾向にある、本校に入学してくる生徒の約 6 割が中央小学校、約 4 割が布忍小学校を卒業した児童である。なお、両小学校は本校と共にインターナショナルセーフスクールの認証取得を目指している。

6 日課表

	時 程
予鈴	8 : 25
朝読書	8 : 30 ~ 8 : 40
朝学活 (生徒朝会)	8 : 40 ~ 8 : 50
1 時間目	8 : 50 ~ 9 : 40
2 時間目	9 : 50 ~ 10 : 40
3 時間目	10 : 50 ~ 11 : 40
4 時間目	11 : 50 ~ 12 : 40
給食	12 : 40 ~ 13 : 10
昼休み (20 分間)	13 : 10 ~ 13 : 30
5 時間目	13 : 30 ~ 14 : 20
6 時間目	14 : 30 ~ 15 : 20
掃除 (10 分間)	15 : 20 ~ 15 : 30
終学活	15 : 30 ~ 15 : 40
部活動 (75 ~ 120 分間)	16 : 00 ~ 夏季 18 : 00 冬季 17 : 15
最終下校	夏季 18 : 15 ・ 冬季 17 : 30



※「朝学活」は朝の授業開始前に、「終学活」は夕方の授業終了後に行う、連絡や生活指導を含めたホームルームのことである。

第2章 インターナショナルセーフスクールの取り組み経緯

1 取り組みの背景

○松原市

- 2011年5月 澤井市長がセーフコミュニティ（SC）の取り組みを宣言する。
- 2013年11月 セーフコミュニティ（SC）の国際認証を取得



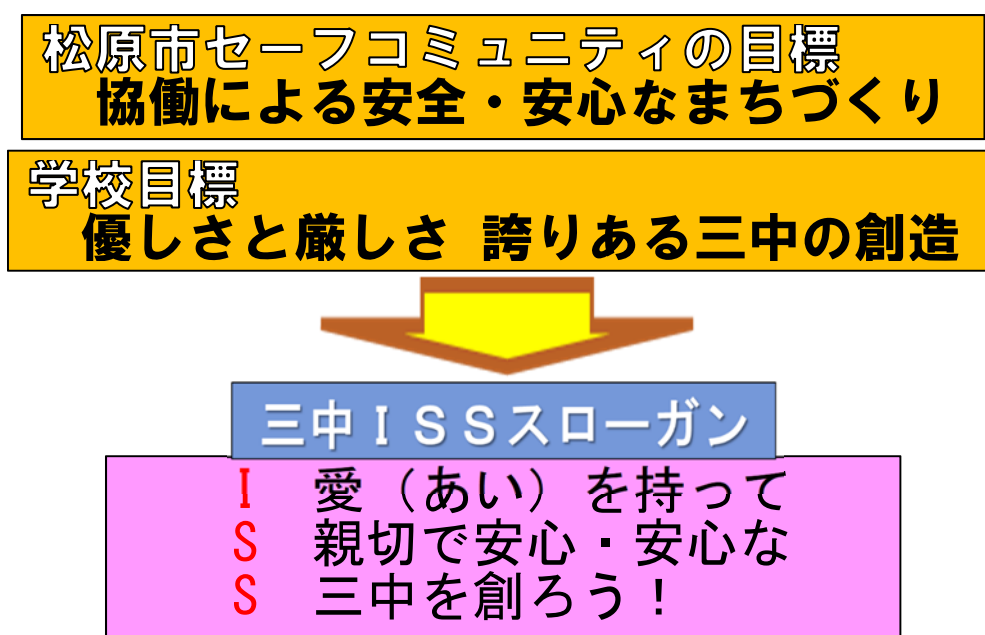
○松原第三中学校校区

- 2015年5月 松原第三中学校区として、中央小学校、布忍小学校、松原第三中学校がインターナショナルセーフスクール（ISS）の取り組み宣誓式
- 2016年11月 インターナショナルセーフスクール（ISS）の事前指導を受ける。



2 セーフコミュニティ（SC）との連携

松原市セーフコミュニティの目標の『協働による安全・安心なまちづくり』と、本校の学校目標である『優しさと厳しさ 誇りある三中の創造』の考えをもとにして、生徒会執行部が本校の三中ISSスローガンを考え、決めた。



3 三中 ISS マスコットキャラクター

ISS をみんなで1つになって取り組むために、生徒会執行部が親しみやすいキャラクターを募集して、決定した。

松原市のシンボルである松と合鴨をアレンジしたこのキャラクターに決まり、名前も『まつすけ』と名付けた。『まつすけ』とは「松原三中を助ける」という意味である。

ISS マスコットキャラクター

『松助（まつすけ）』 松原三中を助ける

- 肩は松原市の木である『松の木』をイメージ
- 頭には松原市で有名な『合鴨』をイメージ
- 生徒の作品



第3章 本校の状況と課題抽出、重点目標設定

安心・安全に関わる本校の状況と課題を、以下の3側面に分けて記す。

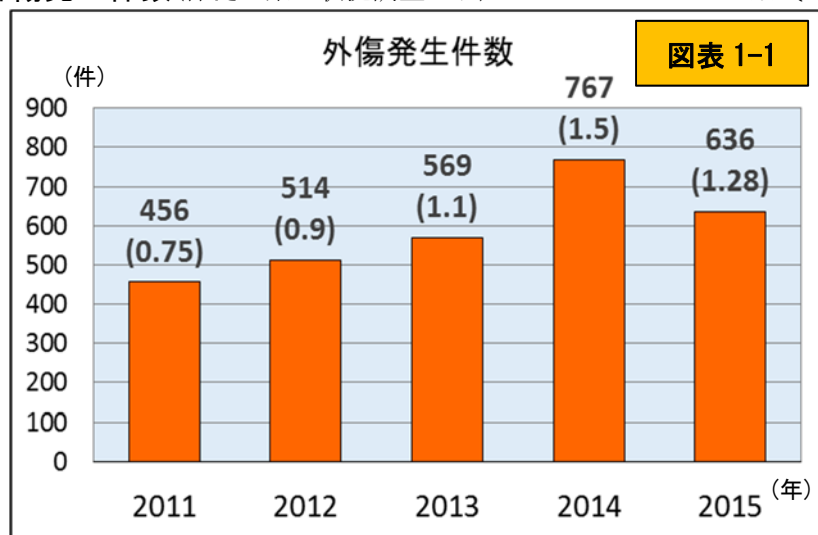
- 1 外傷の発生状況（外傷的側面）
- 2 人間関係（心的側面）
- 3 地域での安全（地域的側面）

1 外傷の発生状況（外傷的側面）

状況1-1 打撲・ねんざ・擦過傷が多い

外傷発生件数(保健室来室状況調査より)

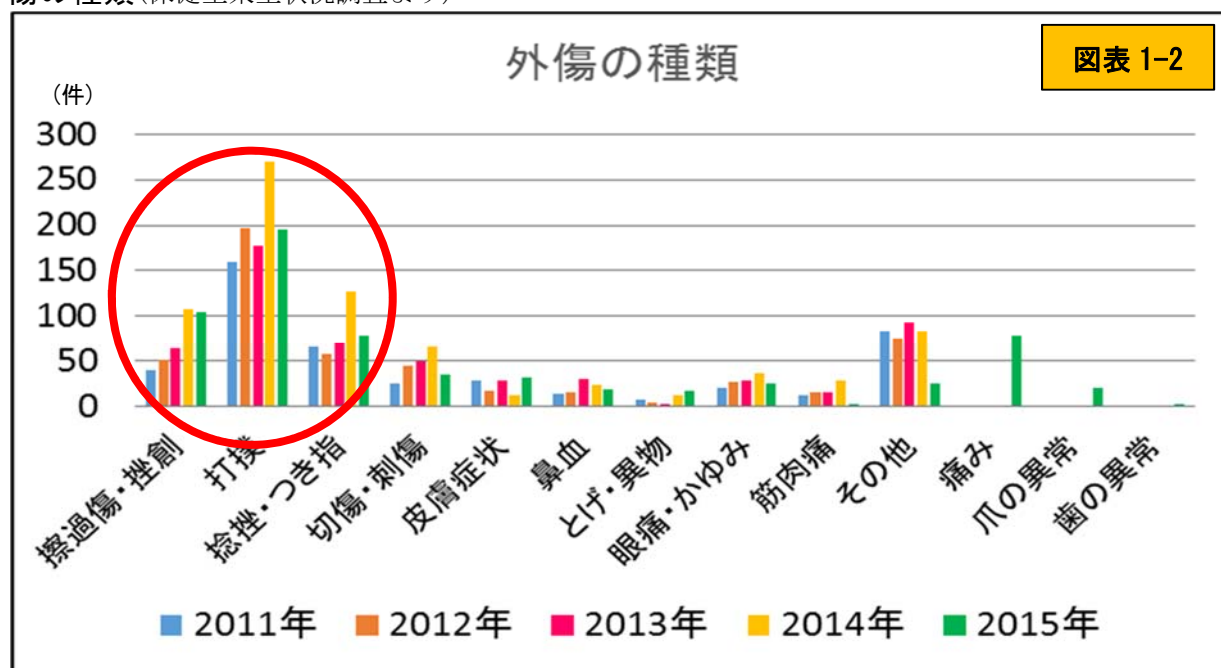
※（ ）内は、1人当たりの年間のケガ率



ISSの取り組みを始めるまで、外傷は年々増加傾向にあった。(図表1-1)

また毎年、打撲が一番多く、次いで擦過傷とねんざが多く起こっている。(図表1-2)

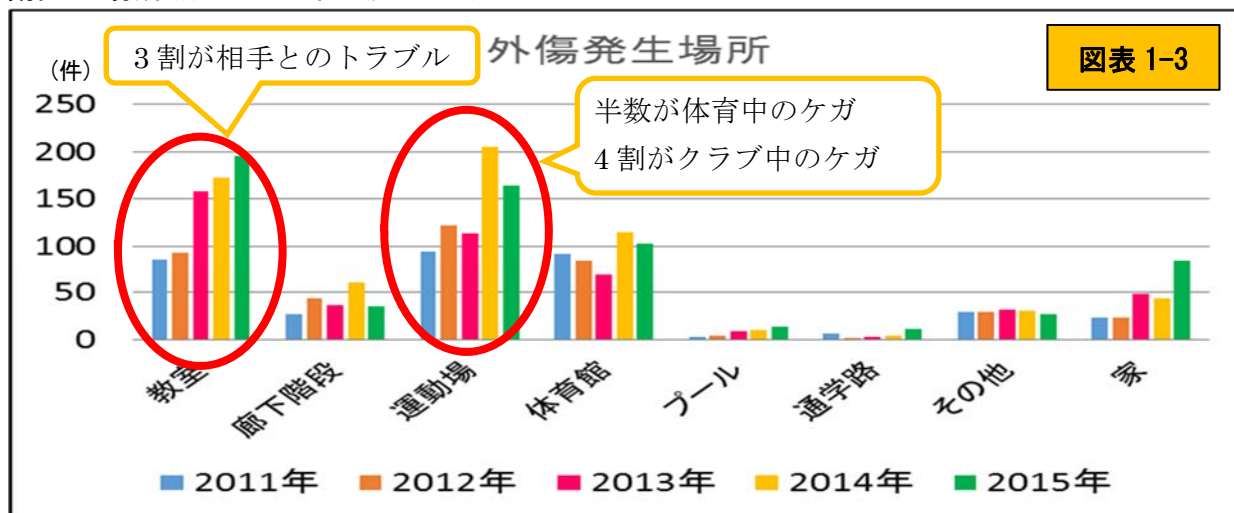
外傷の種類(保健室来室状況調査より)



状況 1-2 教室や運動場でよく起こる

場所別で見ると、教室と運動場でケガはよく起こっている。

外傷発生場所(保健室来室状況調査より)



場所別の打撲となる原因は、以下のようにになっている。教室では、ふざけや対人関係でのトラブルなどのけんかが主な原因である。

打撲となる原因 (保健室来室状況調査より)

教室： ふざけ、対人関係でのトラブル

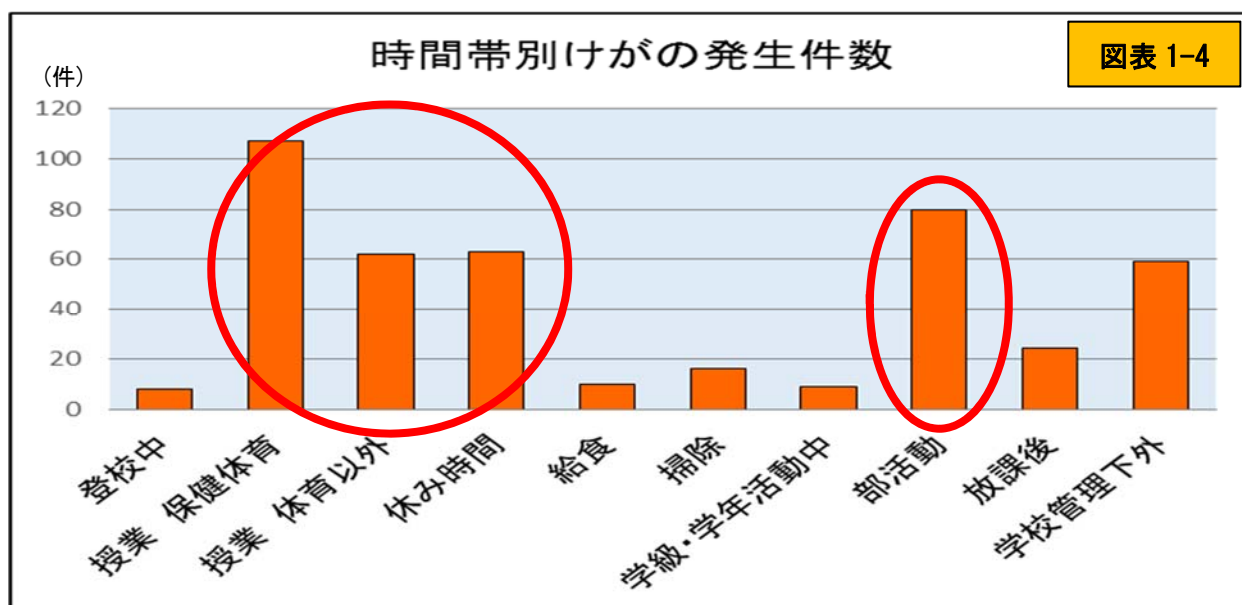
運動場： 人との接触、ぶつかり、ボールとの接触

体育館： 人との接触、ぶつかり、ボールとの接触

状況 1-3 授業中や部活動中に多く、休み時間にも多く起こっている

保健体育の授業中にケガが一番多く、部活動中が次いで多い。また、休み時間にも多く起こっていることがわかる。

外傷の発生時間帯(2015 保健室来室状況調査より)



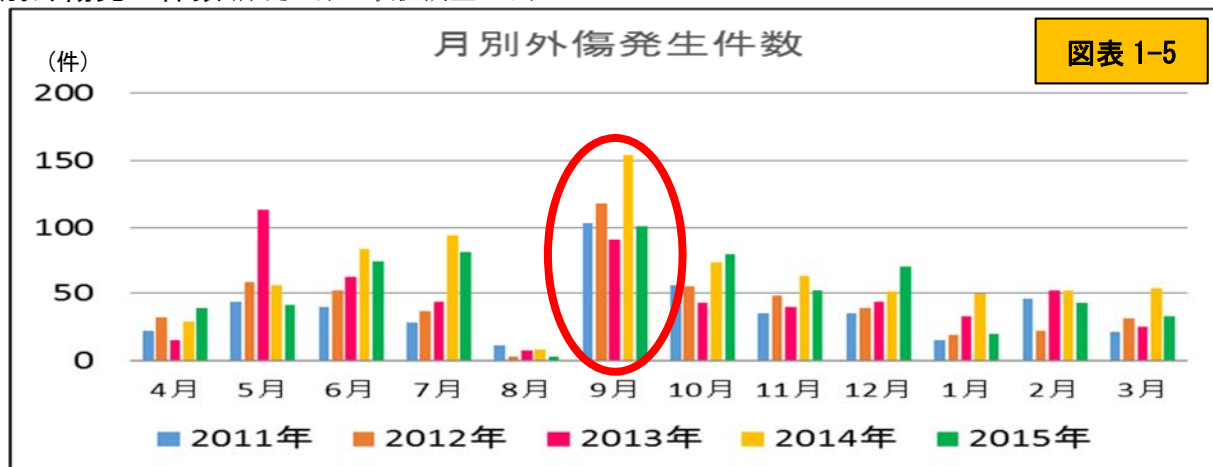
状況 1-4 月別では、9月に多い（→主な理由は、体育大会の練習中）

月別で外傷を調べると9月に発生件数が一番多い。（図表 1-5）

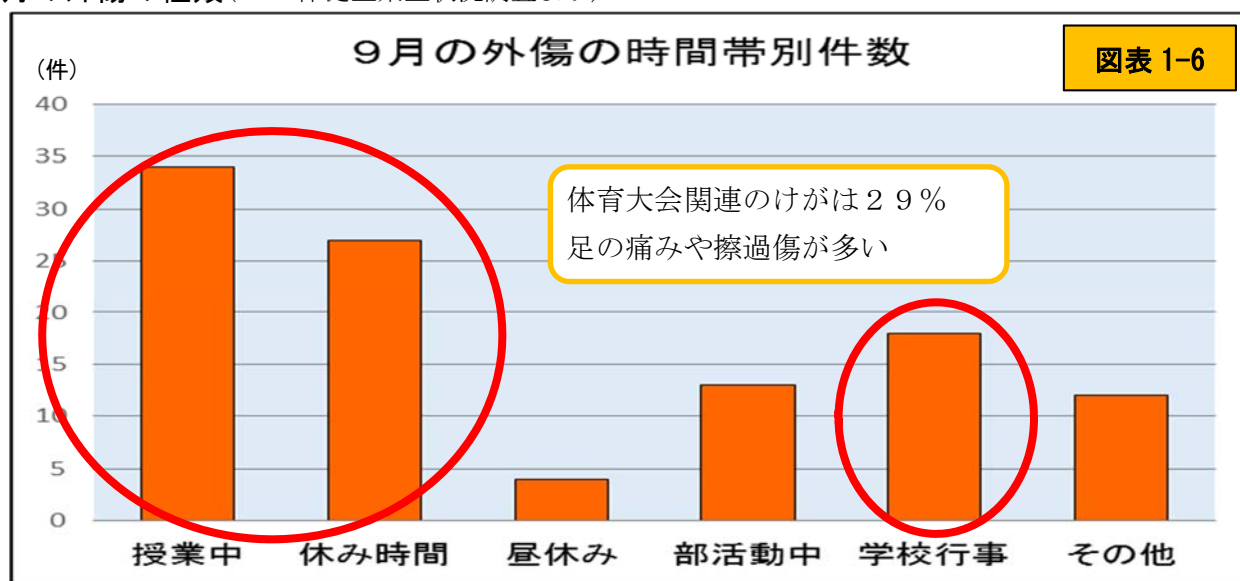
これは、9月末におこなう体育大会の練習が影響している。

時間帯別で見ると、体育大会に関係する「授業中」「休み時間」「学校行事(体育大会)」が、やはり多くなっている。（図表 1-6）

月別外傷発生件数(保健室来室状況調査より)



9月の外傷の種類(2015 保健室来室状況調査より)



以上のことから、外傷的側面として以下の課題を設定する。

外傷的側面

課題 1 校内(授業・部活動・休み時間)のケガが多い

図表 1-1~6

2 人間関係（心的側面）

心身ともに健康である生徒を育成するためにも、「心の安心・安全」は不可欠である。「心が安心・安全でない」状況にあると、充実した学校生活を送れずに常に何らかのストレスを抱えた毎日を送ることになる。

また、「心が安心・安全でない」状況にあることは、いじめや器物破損、暴力行為など、さまざまなトラブルにつながる現実がある。

逆に、「心が安心・安全である」ことは、学校生活を楽しく豊かで、居心地良く過ごすことにつながる。

よって、外傷的側面に加えて、心的側面も重点項目と考える。

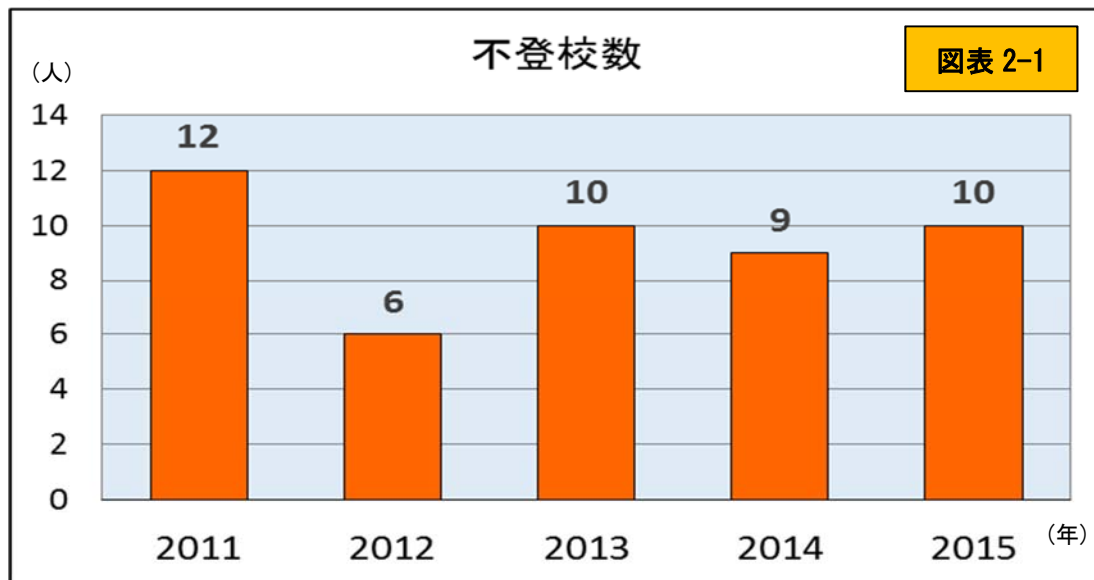
本校における、心的な心の問題に起因する状況は次の通りである。

状況 2-1 不登校、器物破損、暴力行為が見られる

日本では、学校に 30 日以上登校できない生徒を「不登校」として、注意を払っている。不登校の原因は、様々であるが、学力の問題や家庭の問題に加えて、人間関係が構築できなかったり、コミュニケーションがうまくできないために学校での居場所を見いだせない場合も多い。

本校では、毎年 10 人程度の生徒が不登校である。そのほとんどの生徒が、他の生徒とのコミュニケーションが苦手であったり、友だちづくりが苦手である。

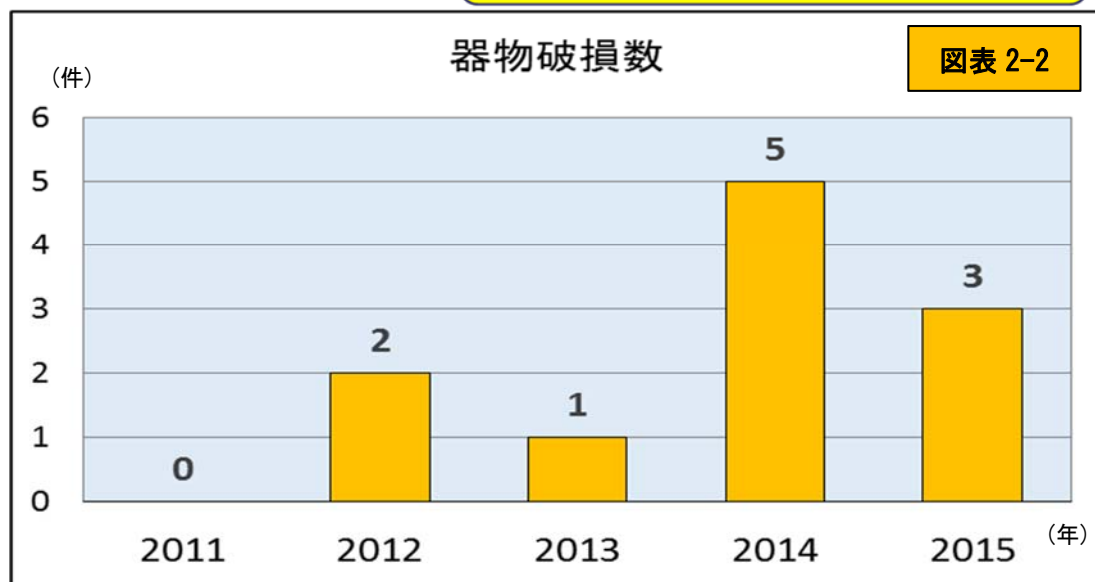
不登校数(長期欠席者調査より)



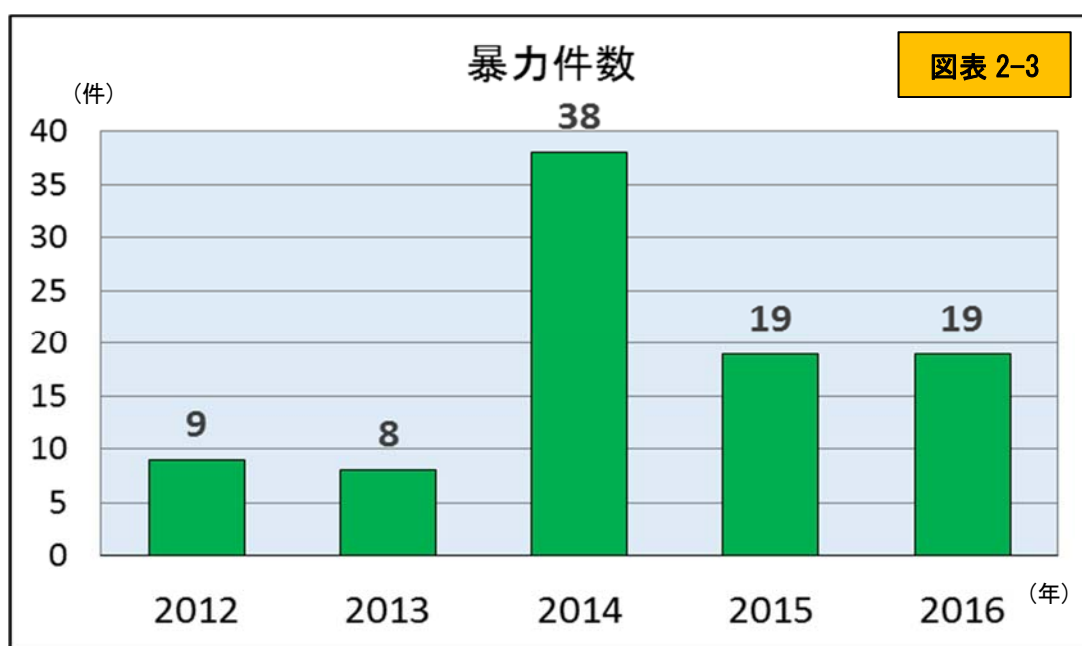
本校では、毎年数件の器物破損が発生している。その多くがうまくコミュニケーションができなかったり、自分をうまく表現できないことからの苛立ちが原因となっている。この中で、他人に危害を与えている事例はないが、破損するものによっては、他の人にケガを負わせる可能性があることから注視している。

器物破損数(校内生徒指導調査より)

破損は、蛍光灯スイッチの押し込、
トイレトペーパーホルダーの破損



加えて、本校では**図表 2-3**のように暴力行為が発生している。そのほとんどが、口論から発展したもので、自分の思いをうまく表現できず、また感情をコントロールできずに、思わず手が出ている現状である。



以上の状況をまとめると、下図のようになる。いずれにも共通するのは、他者とのコミュニケーションがうまく取れていない点であることに着目している。

不登校の要因

・学校での人間関係のトラブルや学習面の不安、家庭生活の不安定さ、保護者の教育方針など、さまざまな要因が融合している。

器物破損の原因

・自分の気持ちのいらだちや不満を、物に当たることで解消しようとしている。

暴力行為の原因

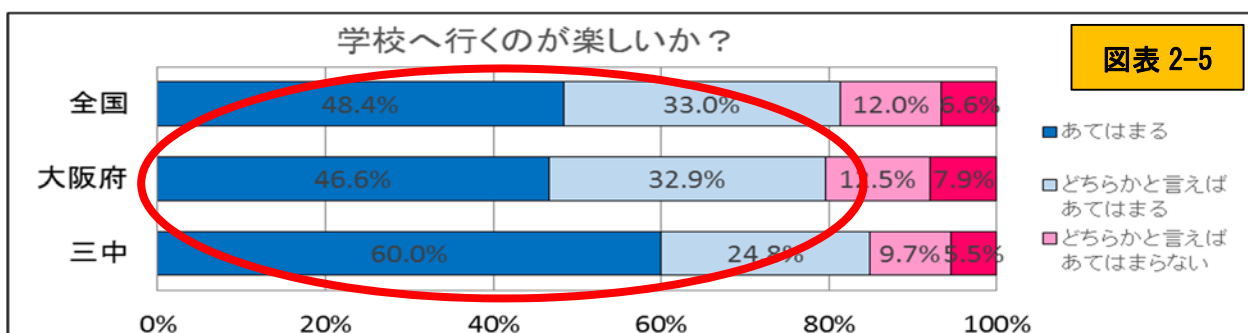
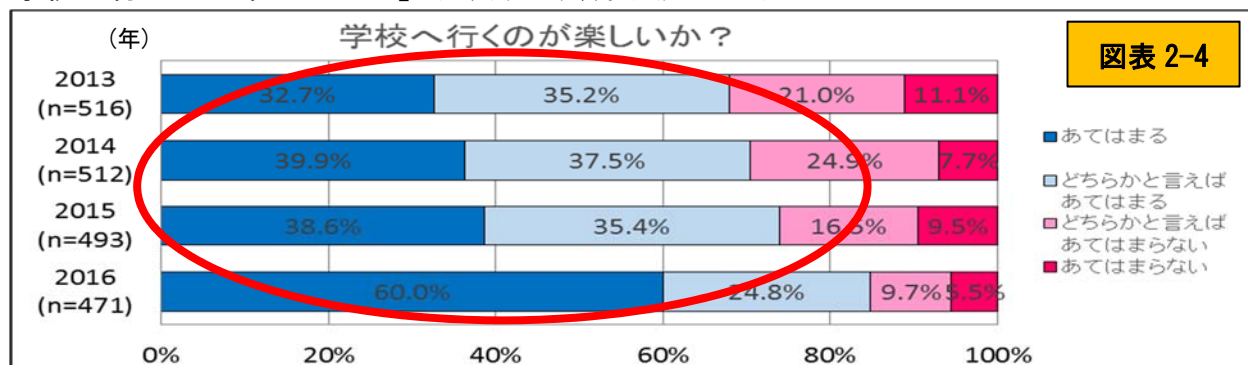
・相手とのトラブルを「力」により解決しようとしている。

他者とのコミュニケーションが
充分にとれていない

状況 2-2 生徒の 80% が「学校へ行くのが楽しい」と感じている

本校の生徒は全国、大阪府と比較しても、学校に行くのが楽しいと感じている。

「学校へ行くのが楽しいか？」（全国学力学習状況調査より）



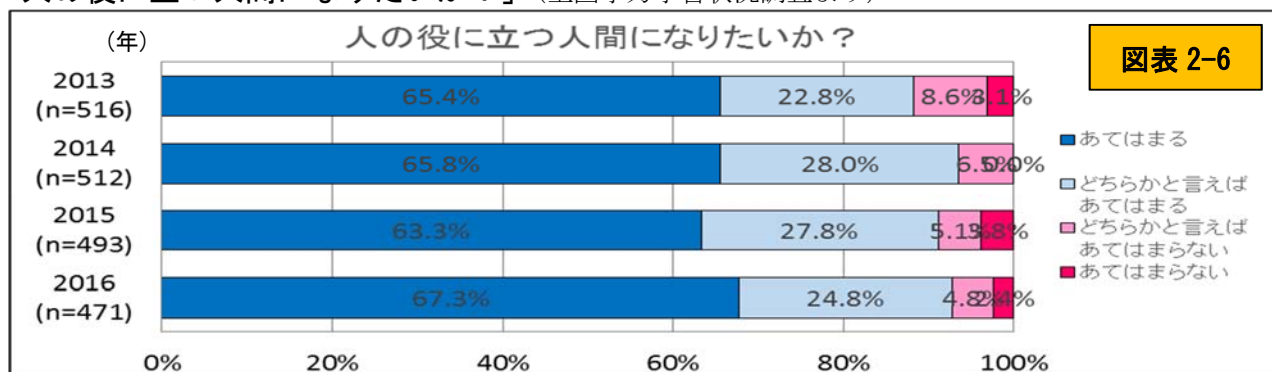
状況 2-3 「人の役に立ちたい」が、「役に立てていない」と感じている

「人の役に立つ人間になりたい」という気持ちを持つ生徒がほとんどであり、2013 年より増減しながらも増加傾向にある。(図表 2-6)

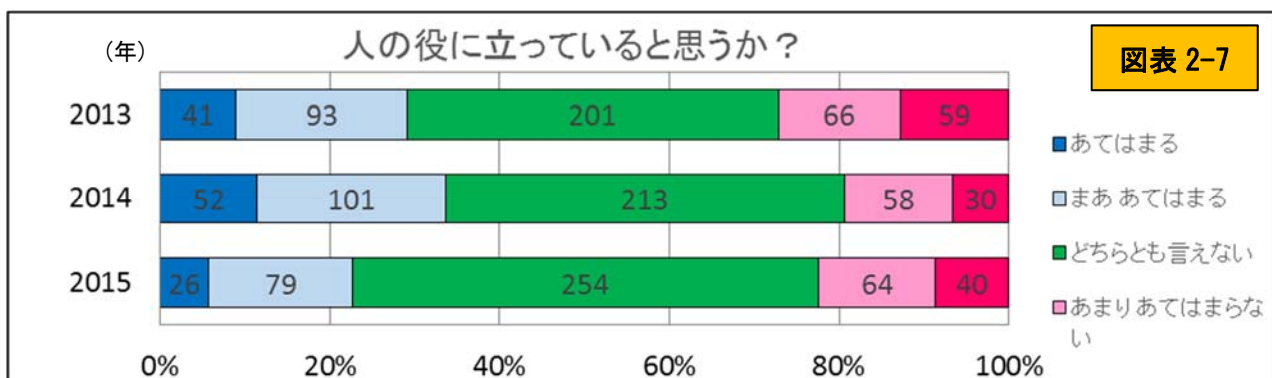
一方、「人の役に立っている」という実感を持っている生徒は 3 割を下回っている。(図表 2-7)

このことから、役に立ちたいと思いながらも、役に立てていないと感じている自己肯定感の低い生徒がいることがわかる。

「人の役に立つ人間になりたいか？」(全国学力学習状況調査より)

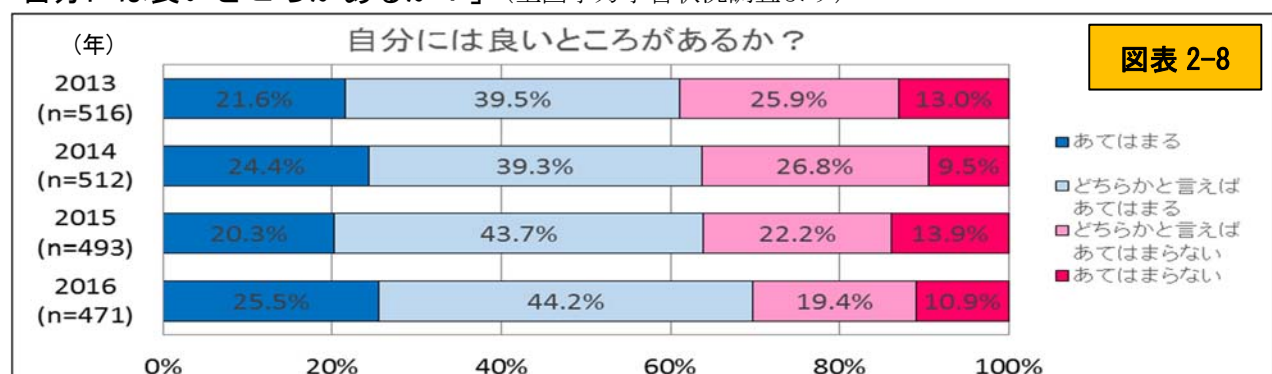


「人の役に立っていると思うか？」(全国学力学習状況調査より)



また、「自分には良いところがある」と感じていない生徒が、改善しているが、3～4割程度いる状況にある。

「自分には良いところがあるか？」(全国学力学習状況調査より)



以上の状況をまとめると、下図のようになる。

まとめると、本校は自分に自信のない生徒が多い現状なので、自分への自信をつける必要がある。

○生徒の特徴

- ・ 9割以上の生徒が「人の役に立ちたい」と思いながら、反面、役に立っていると感じている生徒は2，3割程度となっている。
- ・ 「自分に良いところがある」と感じていない生徒が、改善しているが、3～4割程度いる状況にある。

以上のことから、心的側面として以下の課題2点を設定する。

心的側面

課題2 コミュニケーション能力が不十分の生徒がいる

図表 2-1～3

課題3 自分に自信のない生徒がいる

図表 2-6～8

3 地域での安全（地域的側面）

生徒は、登下校や休日など多くの時間を地域で過ごす。また、学校も地域の一員であることから安全な地域づくりと安全な学校づくりは生徒や教員にとっても車の両輪である。

地域との関わりは、大きくは「交通安全」や「災害」に代表される。そこで、『交通安全』、『災害時の安全』という視点でアンケートを実施する中で、以下について明らかになった。

状況 3-1 半数近くの生徒が、自転車乗車中にケガをしている

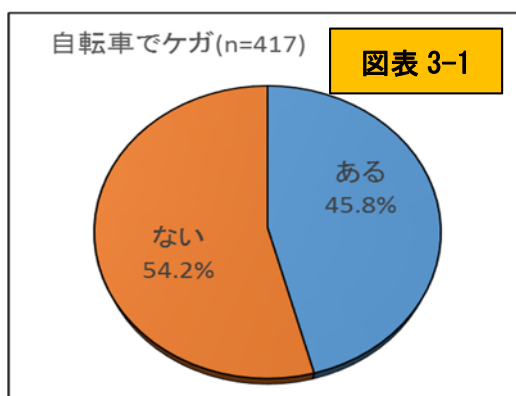
本校は、生徒の登下校については全員が徒歩通学である。しかし、生徒の休日などの交通手段は主に自転車である。

過去 5 年間で、自転車乗車中にケガを経験した生徒が半数近く存在する。（図表 3-1）

しかし、交通ルールへの規範意識が一定高いことがうかがえる。（図表 3-2）

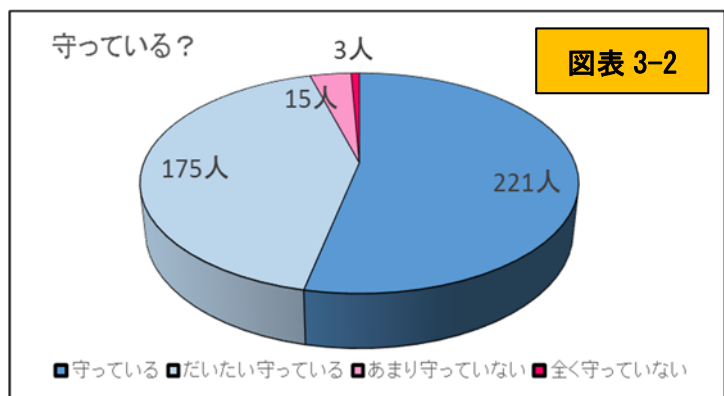
ケガの内容としては、接触や自分で転倒することが多い。（図表 3-3）

過去 5 年間の
自転車乗車中のケガ経験

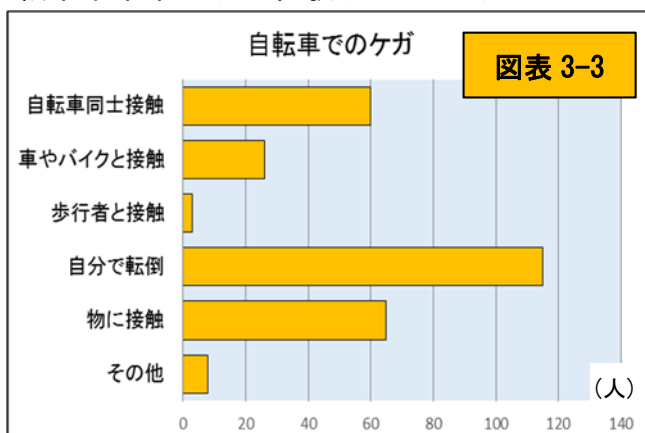


「自転車乗車時に、交通ルールを守っているか？」

(2016 年 9 月 全校安全アンケート調査より)



自転車乗車中のケガ経験(〃 より)



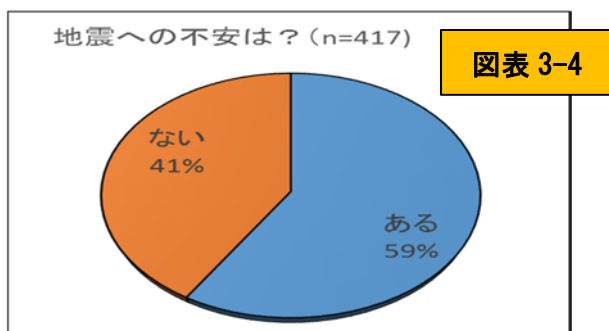
状況 3-2 半数以上の生徒が、地震に対する不安を持っている

日本列島のまわりでは、4つのプレートがぶつかりあっていて、日本は世界的にも地震が多い国である。平日の日中に災害が発生した場合、地域にいるのは高齢者や子どもたちがほとんどである。そのような中で、中学生の担える役割は大きいことから、地震に対する意識を調査した。

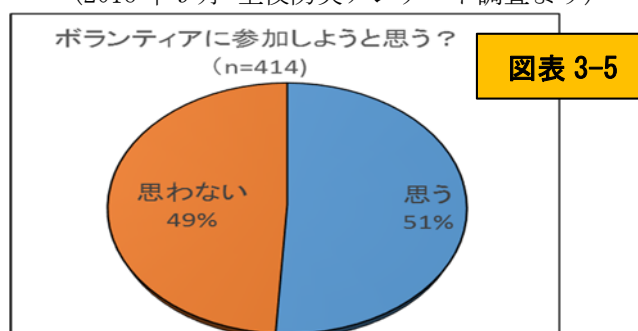
2011年東日本大震災以降、南海トラフ地震の可能性が高いこともあり、生徒の地震に対する意識や不安は高くなっている。(図表 3-4)

また、災害ボランティアへの参画意識も半数を超えている。(図表 3-5)

「地震に対する不安があるか？」



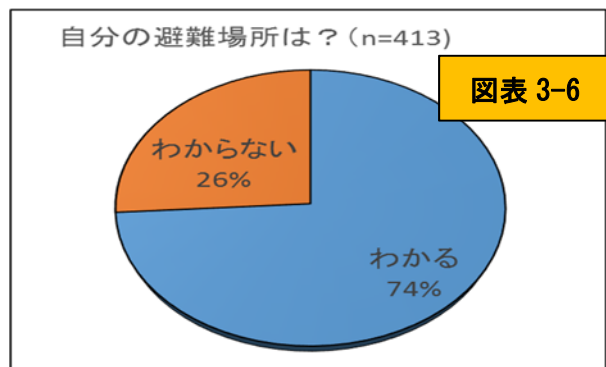
「将来、災害ボランティア等に参加しようと思うか？」
(2016年9月 全校防災アンケート調査より)



状況 3-3 災害に対する備えは不十分である

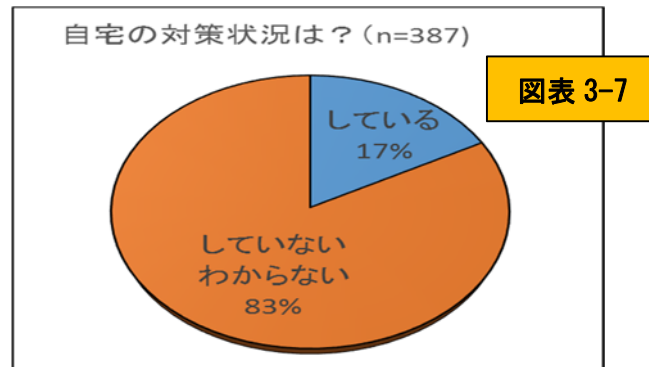
避難場所の認知は高いが、災害時の準備はまだまだ低い現状がある。

「災害時の自分の避難場所は？」

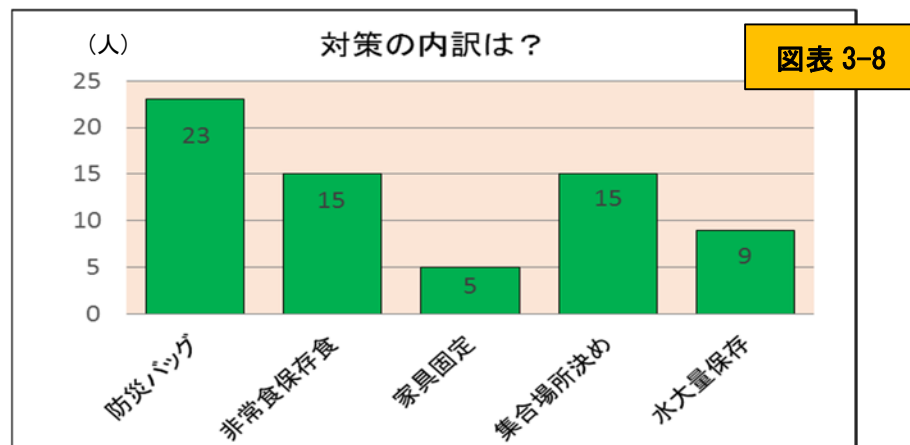


「自宅での災害に対する対策状況は？」

(2016年9月 全校防災アンケート調査より)



「対策をしている具体的な内訳は？」 (2016年9月 全校防災アンケート調査より)



以上の事から、地域的側面として以下の課題 2 点を設定する。

地域的側面

課題 4 自転車事故等を経験している生徒がいる

図表 3-1~3

課題 5 災害への不安はあるが、準備は不十分である

図表 3-4~8

4 重点目標の設定

上記 1～5 の課題を克服するために、以下の重点目標を設定した。

課題

重点目標

外傷的側面

1 校内(授業・部活動・休み時間)のケガが多い



1. 校内のケガの削減

心的側面

2 コミュニケーション能力が不十分の生徒がいる

3 自分に自信のない生徒がいる



2. コミュニケーション能力の向上

3. 自己肯定感の向上

地域的側面

4 自転車事故等を経験している生徒がいる

5 災害への不安はあるが、準備は不十分である



4. 交通安全の意識・技術の向上

5. 防災の意識の向上

第4章 8つの指標に基づいた取り組み

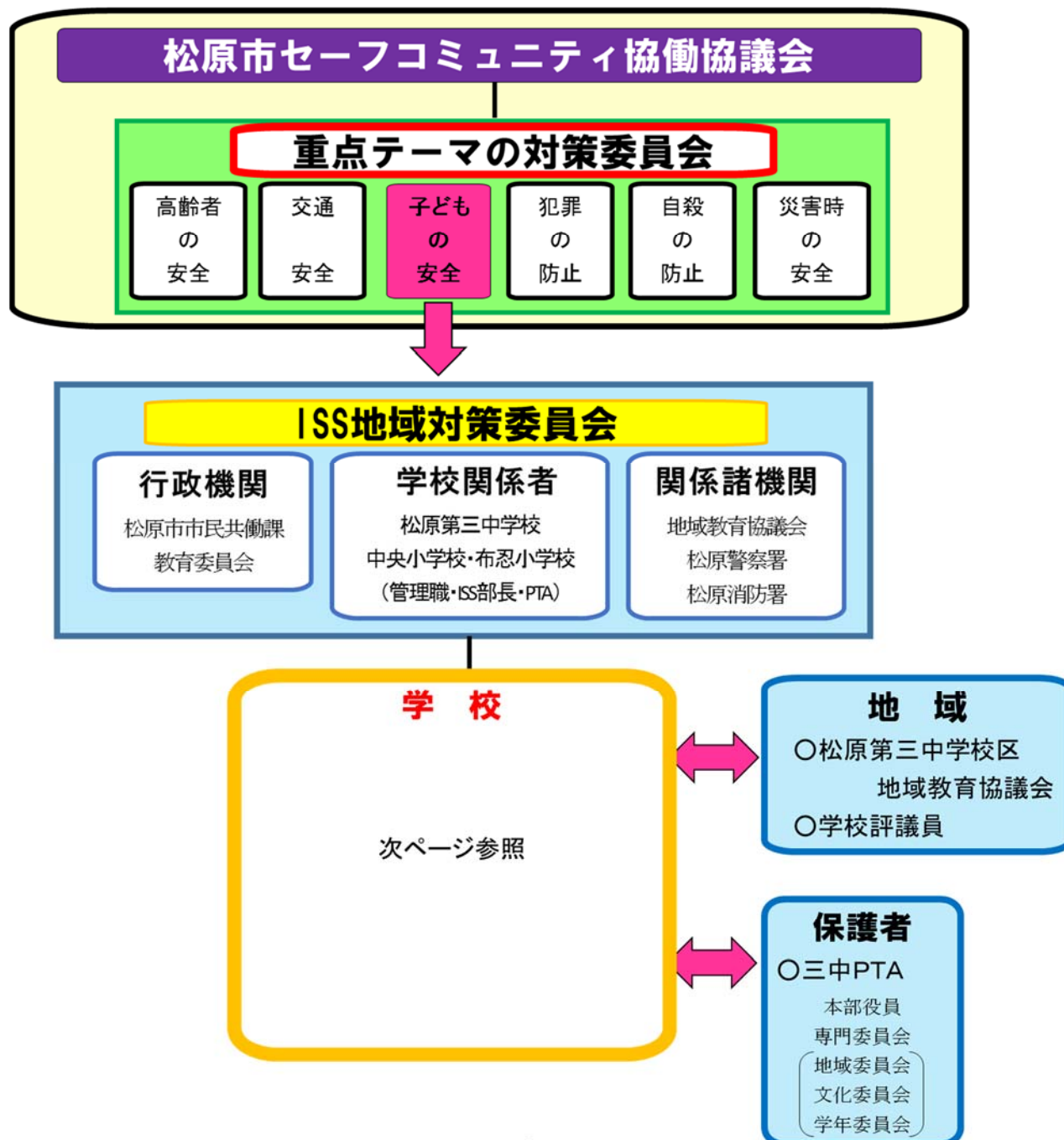
以上の問題点を解決するため、以下のとおり8指標にそって取り組みを進めた。

指標1 協働を基盤とした安全向上に取り組む運営体制が整備されている

1 インターナショナルセーフスクールの推進組織図

三中校区のISSの組織体制としては、下図のような組織図になっている。

本市セーフコミュニティとの関連では、主に「子どもの安全対策委員会」と協働するものである。また、学校は地域や保護者と連携をとりながら取り組みを進めている。

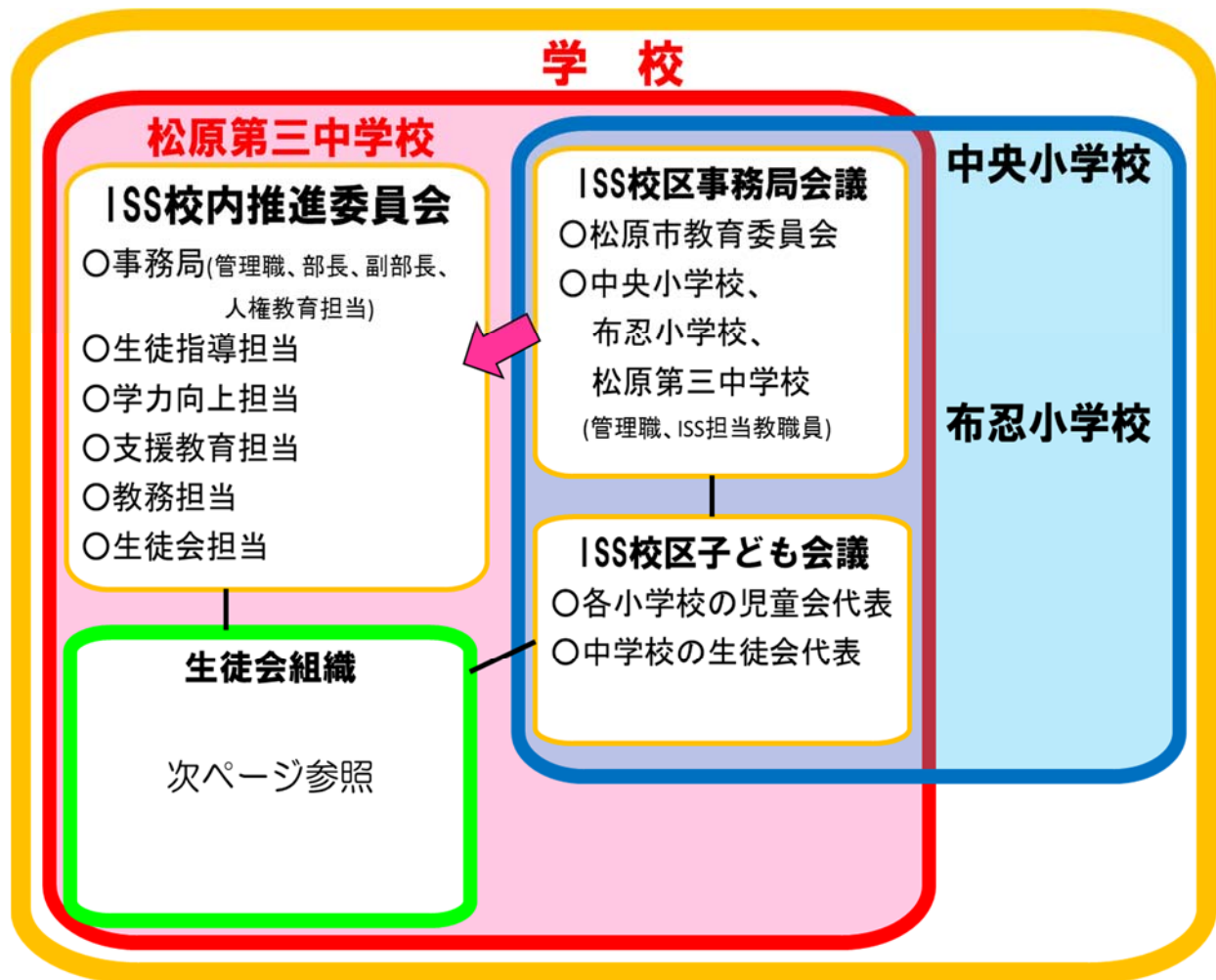


2 学校内の推進組織図

校内の ISS 組織は、下図のような組織図である。

ISS の取り組みをともに進める本校区の中央小学校と布忍小学校で構成された **ISS 校区事務局会議**では、今後の流れの確認や各学校の取り組みの交流をおこなっている。

各小学校の児童会代表と本校の生徒会代表による **ISS 校区子ども会議**を設けることで、校区内の子どもたちのつながりを作り、いっしょに報告や発表をする機会ができあがっている。各学校それぞれの取り組みを進める一方、校区で連携した取り組みを推進するための場となっている。年 4 回実施。



ISS 校区子ども会議の様子



3 生徒会組織図

生徒会の組織図は、下図である。

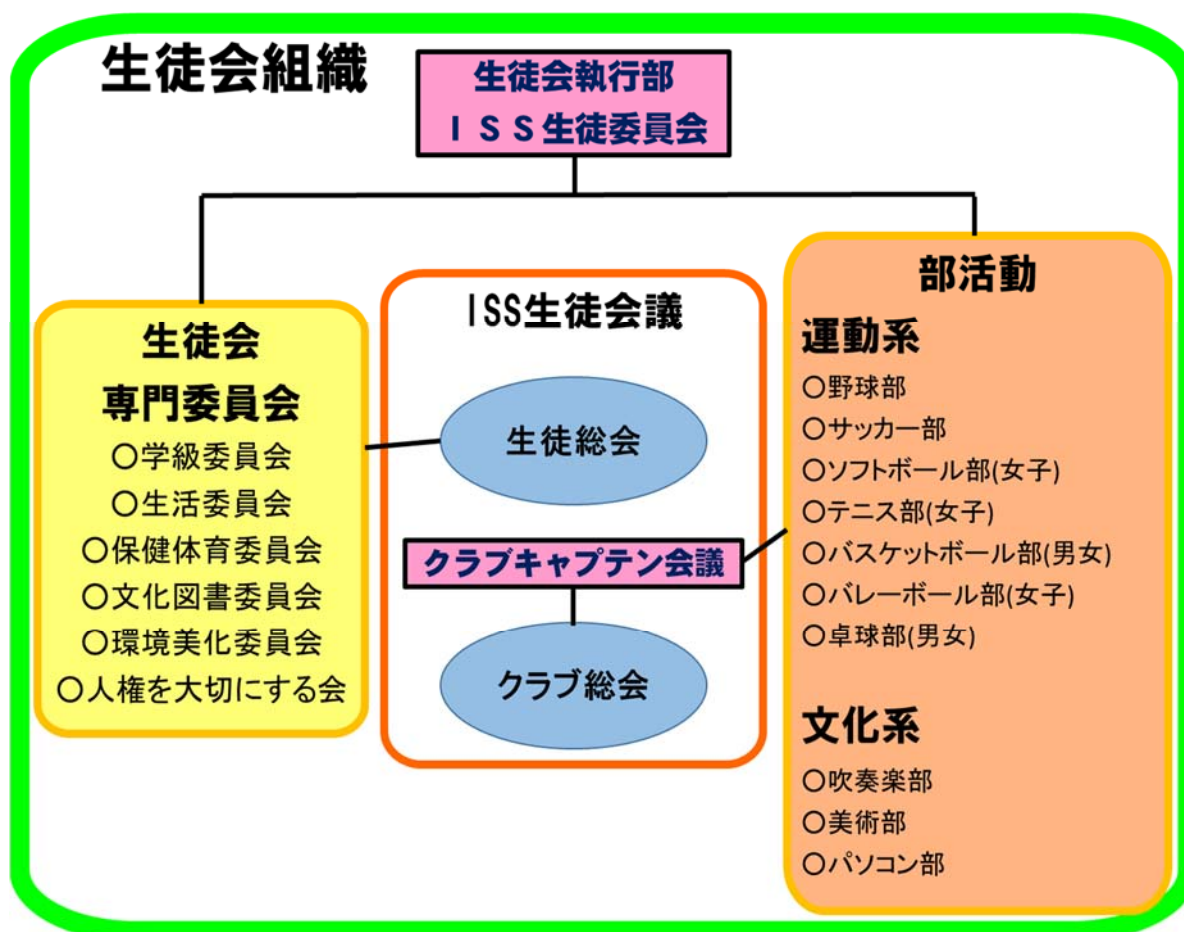
生徒会執行部が**ISS 生徒委員会**を兼ねる形で、全体指揮をとっている。

生徒会専門委員会は、各専門委員会が毎月1回定期的に会議を実施している。その中で、新たな取り組みを考案し、実行にうつしている。また、半年に1回おこなう**生徒総会**では、各委員会の目標や具体的内容を生徒全員で確認している。

また、**部活動**の所属率は80%と高く、運動系・文化系合わせると、10のクラブが存在する。

部活動でのケガが多いことから、それぞれのクラブのキャプテンからなる**クラブキャプテン会議**を通じて、安全に関する情報を共有している。

また、4月には新1年生も交えたクラブ加入部員全員による**クラブ総会**を行っている。より良いクラブ活動が行えるように、安全に関しての周知徹底を図っている。



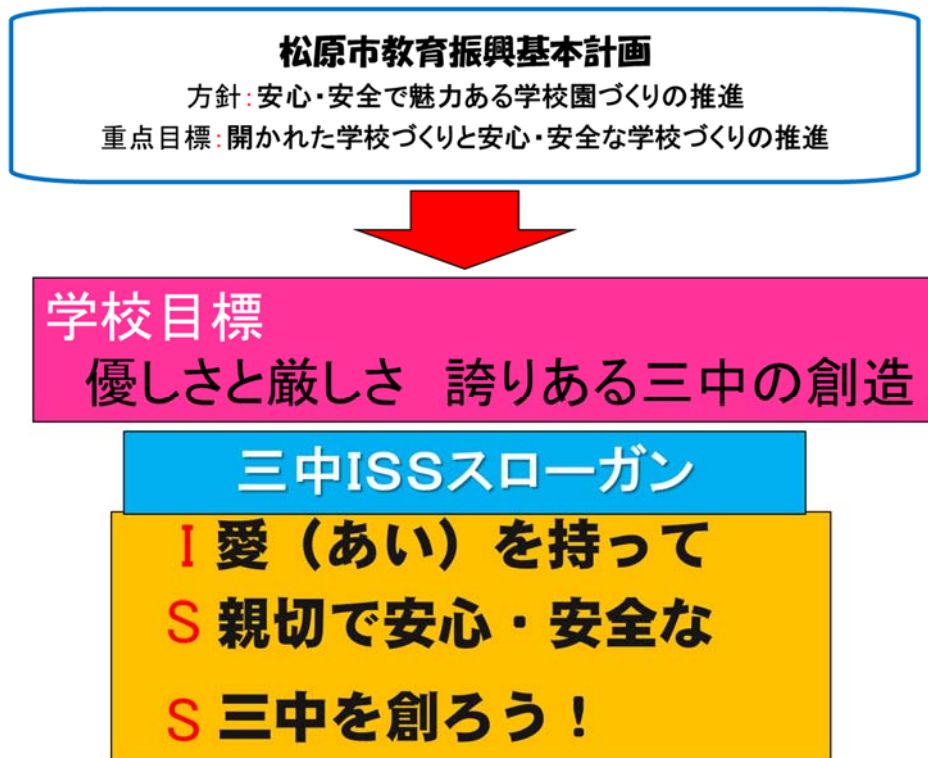
生徒総会の様子



指標 2 取り組みの方針(政策)は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会の方向性と一致している

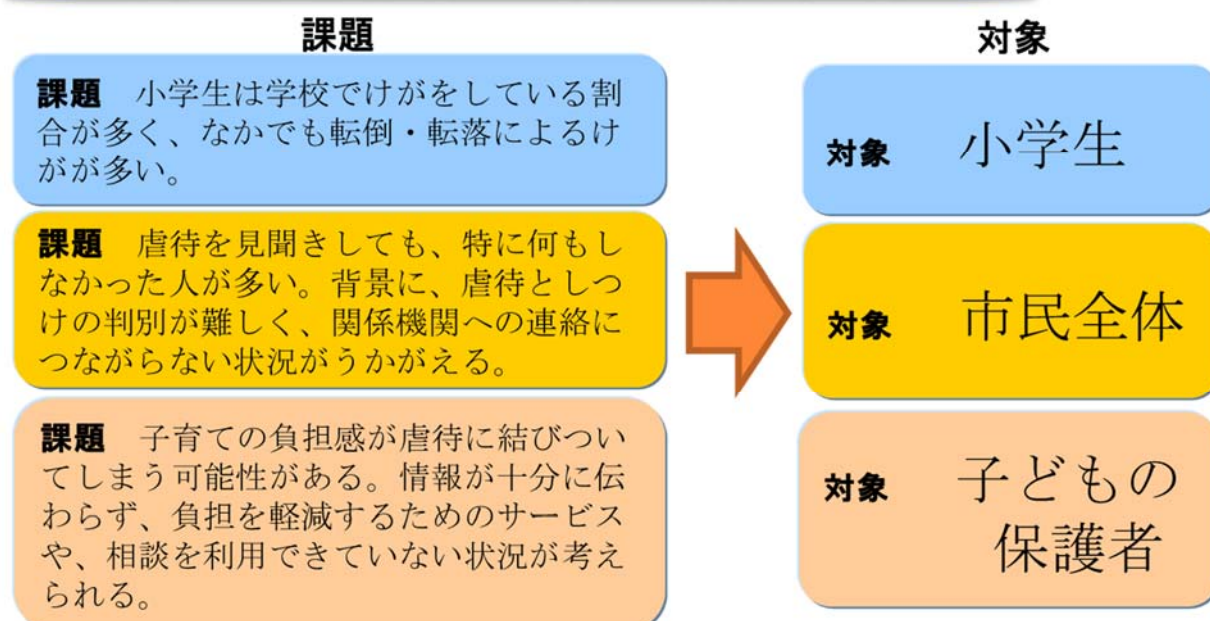
1 松原市教育委員会との関連

以下の新しく策定した松原市教育振興基本計画に沿って、取り組みを推進している。



2 松原市セーフコミュニティと学校の安全との関連

松原市「子どもの安全対策委員会」の課題



本校の安心・安全に関する取り組みの全体像（指標３～指標５）

	側面	重点目標	主な対象			
			生徒	教職員	PTA・保護者	地域・来校者
校内	外傷的側面	1. 校内のケガの削減	3－1～4	3－1～4	3－1、2	3－1、2
			4－1	4－1		
			5－1～3	5－2、3		
	心的側面	2. コミュニケーション能力の向上	3－5～10	3－5	3－5、8	3－5、9、10
			4－2、3	4－3	4－2	
			5－4、5	5－4		
		3. 自己肯定感の向上	3－11～17	3－11、17		3－14、15、16
			5－6～8			
校外	4. 交通安全の意識・技術の向上	3－18、19	3－18、19	3－18		
		5－9	5－9		5－9	
	5. 防災の意識の向上					
		4－4～6	4－4～6	4－5、6	4－4～6	
1～5		5－10～13	5－13		5－12、13	

指標 3

指標 4

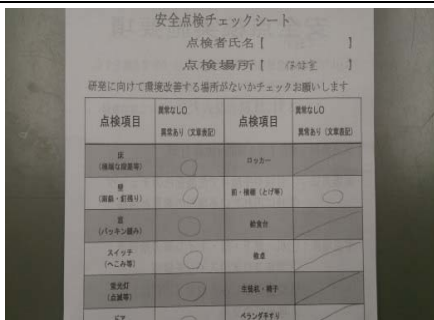
指標 5

指標 3 すべての性別、年齢(学年)、環境、状況をカバーする長期かつ継続的な予防活動をしている

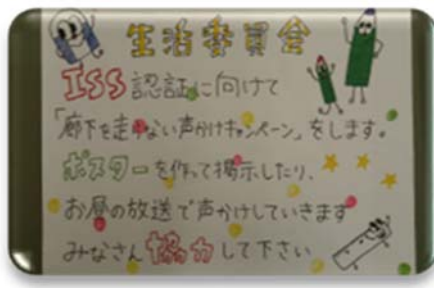
本校では、従来からさまざまな安全対策に取り組んでいる。以下に、主なものをまとめる。

1 外傷的側面

重点目標 1. 校内のケガの削減

3-1	校内の安全点検	継続
主な対象	生徒、教職員、PTA、地域	
内 容	教員が、点検シートを使って校内の安全点検(危険な箇所がないかのチェック)を実施している。 それぞれの場所の管理責任者(教員)が責任場所を担って、学期に2回程度(定期テスト後の昼からなどの時間を使って)行っている。	

3-2	校区クリーンキャンペーン	継続
主な対象	生徒、教職員、PTA、地域	
内 容	地域で結成されている地域教育協議会の主催により、生徒・教職員・PTA・地域の方々がいっしょに運動場を中心に清掃活動を行っている。 生徒は、生徒会専門委員、クラブ員、ボランティアで総勢 200 名程度参加している。 体育大会前の 9 月に、年 1 回、ケガ防止の観点で、グラウンド整備、石ころ拾い、草引きなどを実施している。	

3-3	生活委員会による啓発	継続
主な対象	生徒、教職員	
内 容	生徒(生活委員)が、いじめ・暴力防止のポスターを作成して、掲示をしている。 また、生活委員の代表が、毎日の昼休み前に、昼休みでのケガ防止の呼びかけを校内放送で実施している。	

3－4	救命救急講習の実施	継 続
主な対象	2年、教職員	
内 容	消防隊に実際に来ていただき、救命救急の講習を受けた。 AED の使用方法についても、実践しながら教えていただいた。 年 1 回実施。	

2 心的側面

重点目標 2. コミュニケーション能力の向上

3－5	あいさつ運動	継 続
主な対象	生徒、教職員、(PTA、地域)	
内 容	生徒(生徒会執行部を中心に、生徒会専門委員会の生徒)が、朝に校門に立ち、あいさつ運動を実施している。朝に気持ちの良いあいさつをすることで、コミュニケーションのきっかけを作っている。 年に数回、PTA や地域の方々にも協力を呼びかけ、参加してもらっている。	

3－6	HR 合宿	継 続
主な対象	1 年	
内 容	中学 1 年の 5 月頃に実施。 班別オリエンテーリング、クラスレク、学年レクなどを通じて、新しい仲間とのつながりを図っている。 中学校に入学し、新しい人間関係を作るためのきっかけとなる宿泊行事である。	

3-7	修学旅行	継 続	
主な対象	3 年		
内 容	3 年間の集大成として、民泊やクラス泊、体験活動を通じて、仲間と生活を共にする宿泊行事である。 夜のクラスミーティングを実施する中で、仲間とのつながりや自分の居場所を確認する。		

3-8	親子レクリエーション	継 続	
主な対象	1 年、保護者		
内 容	中学 1 年の 6 月頃に保護者を招いて実施。生徒と保護者がいっしょにレクリエーションに取り組む行事である。 親子でいっしょに汗を流して、関係を深めている。 中学に入ってから、生徒のがんばりや人間関係を保護者の方に知ってもらう機会にもなっている。		

3-9	ヒューマンタウンフェスティバル	継 続	
主な対象	生徒会執行部、有志、地域		
内 容	毎年 11 月に、本校運動場で地域教育協議会主催のヒューマンタウンフェスティバルが行われている。 本校の生徒も、テーマを「人権の街」として、地域防災ボランティア活動や ISS 活動報告を実施している。 ブースや報告での交流を通じて、コミュニケーションを図っている。		

3-10	ふれあい交流運動会	継 続	
主な対象	生徒会執行部、人権の会、地域		
内 容	毎年 5 月に、松原市内の福祉施設の方々との交流運動会を行っている。 人権を大切にする会や有志の生徒は、ボランティアとして参加して、一緒に運動会に参加して、交流を深めている。		

重点目標 3. 自己肯定感の向上

心のケガや暴力行為の背景には、自己肯定感が関係している。しかし、自己肯定感の向上は、「自分に自信を持ちなさい。」と教え込んで向上するものではない。「自分を知ること」、「自分の将来を考えること」、「いろいろな人と関わりをつくること」で、自己肯定感は育まれるものだという考えのもと、本校では以下のような取り組みを従来から進めている。

3-11	人権尊重の教育活動の推進	継 続
主な対象	生徒、教職員	
内 容	日々の教育活動の中で、人権総合・道徳のカリキュラムの充実を図っている。 すべての取り組みを通じて、自己肯定感の向上、道徳的な心の成長をねらいにしている。 教員が学年会議で、ていねいな細案検討をすることで、実態に合った身になるカリキュラムを練って、実践している。	

3-12	「障がい理解」学習	継 続
主な対象	生徒	
内 容	地域の方に来ていただいたの聞き取り、読み物教材、班活動など、さまざまな手法を使って、各学年で障がい理解に取り組んでいる。 違いを認め合い、「自分らしく生きる」ことを考えさせる取り組みである。	

3-13	進路と仲間	継 続
主な対象	生徒	
内 容	自分や仲間の「進路」を共に考えるきっかけとする取り組みである。進路選択の方法や種類を学び、お互いに将来の事を考える中で、「自分とは何か」を考えるようになる。 中学3年では、卒業生からの聞き取りも行っている。	

3-14	職場体験	継 続
主な対象	2 年、地域	
内 容	中学 2 年の秋頃に 2 日間実施。数名のグループに分かれて、地域の職場で実際に働く。 その中で、仕事について考え、親の思いに触れることで、自分自身を見つめる取り組みになっている。	

3-15	識字と地域	継 続
主な対象	1・2 年、地域	
内 容	生徒の希望者を募り、地域にある「識字学校」への見学を行っている。 実際に学ぶ方々との出会いから、学ぶ大切さを感じ、自分の将来を考える機会とする取り組みである。 年 1 回実施	

3-16	出前授業	継 続
主な対象	3 年、地域	
内 容	中学 3 年の 1 学期に実施。数校の高校に依頼をして、実際に先生に来ていただき、進路への展望と自分にとって悔いのない進路選択を考えるために体験授業を受ける。	

3-17	校区研究発表会	継 続
主な対象	生徒会執行部、教職員	
内 容	本校、中央小学校、布忍小学校の子どもたちが自分たちの力で、教師や保護者と連携して、「ISS の取り組み」や各学校の授業を公開した。 年 1 回実施	

3 地域的側面

重点目標 4. 交通安全の意識・技術の向上

3-18	PTA 校区巡視 (子ども見守り活動)	継 続	
主な対象	生徒、教職員、PTA		
内 容	年 2 回の祭礼時と夏休み(2 回程度)に、教職員と PTA が一緒に校区巡視をしている。 校区での危険がないかを、地域の方々とともに見守っている。		

3-19	自転車の安全運転講習	継 続	
主な対象	生徒、教職員		
内 容	7 月に年 1 回実施。 大阪府の自転車条例の施行に合わせ、松原警察署から自転車の安全運転に向けての講習会を実施している。		

指標 4 ハイリスクのグループを対象としたプログラムがある

本校では、下記のグループをハイリスクとして設定し、安全向上に努めている。

グループ	根 拠	目 的	取り組み
1 外傷的側面 球技系の部活動 (環境)	ケガの発生頻度が高い	外傷予防をすることで、 外傷の減少を図るため	4-1
2 心的側面 特別な支援を必要 とする生徒 (人)	・人間関係でのトラブルが多い ・心が不安定である	生徒の心身の安全を確保 するため	4-2、3
3 地域的側面 大規模地震に備え た対応 (状況)	松原市は、地震の被害 にあう可能性が高い	災害時の被害を最小限に 抑え、安全を確保するた め	4-4～6

※特別な支援を必要とする生徒とは、問題行動を起こして生徒指導面で支援を必要とする生徒や発達障がいなどで支援を要する生徒、不登校などの配慮を要する生徒のことである。

1 外傷的側面 球技系の部活動 (環境)

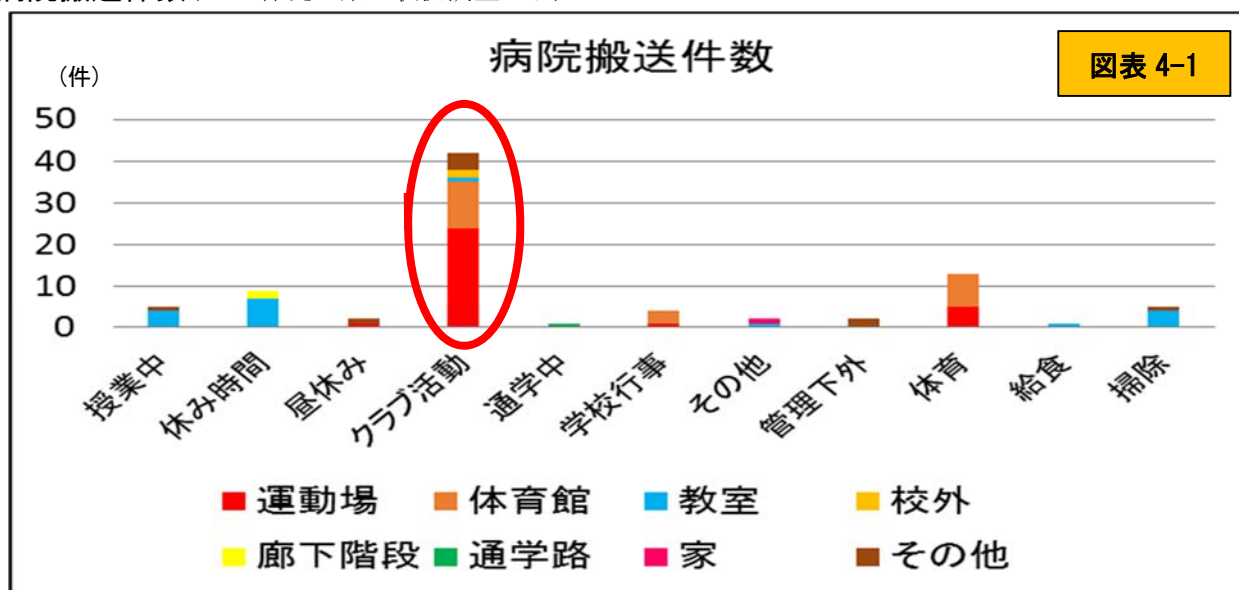
重点目標 1. 校内のケガの削減

病院搬送の事例はクラブ活動中に多い。(図表 4-1)

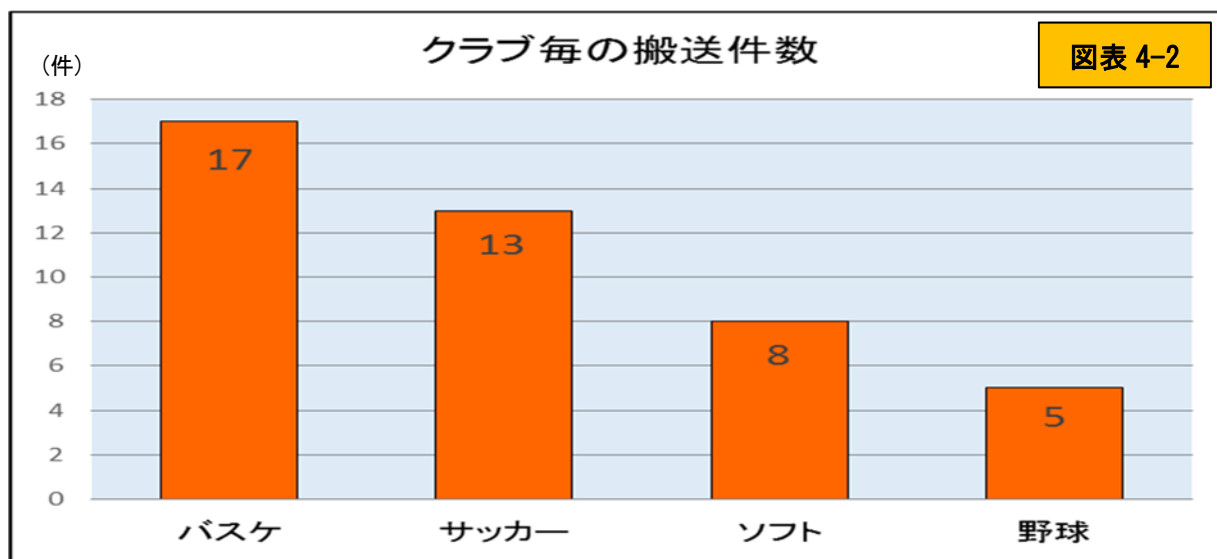
特に 2015 年度は、クラブ活動での病院搬送は、バスケットボール、サッカー、ソフト、野球の 4 つに限られた。(図表 4-2)

このように、部活動でケガが多いのは球技系の部活動である。

病院搬送件数(2015 保健室来室状況調査より)



クラブ毎の搬送件数(2015 保健室来室状況調査より)



クラブ毎の搬送事例 (2015 保健室来室状況調査より)

サッカー、ソフトボール、野球 : 打撲が中心

バスケットボール : 打撲以外に、ジャンプ着地の際の関節への負荷によるケガ

以下の4クラブについて、特に安全面での配慮を心がけた。

4-1	球技の部活動での外傷予防対策	変更
内 容	バスケットボール部 ・シューズのひもを事前に確認する ・ウォームアップ、クールダウンなど、ストレッチの時間を長く取る サッカー部 ・ボールが転がっていないか、常に安全点検をする ・実践練習での打撲防止のために、レガースを着用する ソフトボール部 ・スライディングでの打撲、擦過傷予防のために、ハイソックス、サポーターを着用する 野球部 ・熱中症対策に帽子の着用を徹底する ・ストレッチ時間の延長とカウントでの確認をする ・長ズボンを着用する	   

2 心的側面 特別な支援を必要とする生徒（人）

重点目標2. コミュニケーション能力の向上

特別な支援を必要とする生徒は、さまざまにいる。人間関係でトラブルが多く、情緒の起伏が激しいので教室にいろいろなことがある。安心して教室で過ごすためにも、コミュニケーション能力は大切になる。

また、不登校の生徒が学校に来れるような手立てをうったり、将来を見据えた3年間を送れるように支援をすることも必要である。

学校だけで抱え込むのではなく、子ども家庭センターなどの外部機関とも連携をしながら、取り組みを進めている。

4-2	特別な支援を必要とする生徒への指導と取り組み	継 続
対 象	働きかけの必要な生徒 及びその保護者 - 生徒指導面で支援を必要とする生徒 - 発達障がいなどで支援を必要とする生徒 - 不登校などの配慮を要する生徒	
内 容	生徒指導担当者会議 ↓ 校内ケース会議の実施 - SC,SSWや子ども家庭センターとの連携した指導の統一 - 細かなアセスメントと方向性の検討 別室指導体制（ぬくもり教室） - 教室復帰のための準備教室 - 学力向上と信頼関係の確立 人間関係づくりやアイデンティを深めることを目的とする ①本人とのコミュニケーションの機会を保障 ②別室「ぬくもり教室」での学習指導（日本語と母語保障） ③家庭訪問等による保護者との共通理解、及び支援 ④関係諸機関との連携、協力要請 状況に応じた働きかけを実施	

4-3	各担当による会議での共有と企画立案	継 続
主な対象	生徒、教職員、外部機関	
内 容	本校では、週に1回生徒指導担当者会議を設けている。各学年の担当から、問題事象を集約し、支援を要する生徒への対応策を練っている。それを受けて、企画委員会では、各学年代表に伝えることで、学年全体への共有を図り、違った側面からの手立てを考えている。 また、学期毎に2回おこなう不登校生等支援会議では、長期的な目標を定め、方向性を決めている。 このように会議で方向性を決めていくことで、対象者へのきめ細かな対応をしている。その中で、コミュニケーション能力の向上を図り、ひいては安心した学校生活を送れることを目的にしている。 1回/週 ● 生徒指導担当者会議 ● 各学年生徒指導担当、管理職、養護教諭、全体生指、全体人担 1回/週 ● 企画委員会 ● 各学年代表、管理職、全体生指、全体人担、教務、学力保障 2回/学期 ● 不登校生等支援会議 ● 各学年不登校支援担当、管理職、養護教諭、支援員、全体生指 ケース会議等で外部関係機関とも連携 (SSW,SC,教育委員会、子ども未来室、警察署等)	

3 地域的側面 大規模地震に備えた対応 (状況)

重点目標 5. 防災の意識の向上

以下のような取り組みを通して、防災意識の向上を図っている。防災意識を高めることで、災害への不安を軽減して、災害への準備を進める意識を培っている。

4-4	1.17 阪神淡路大震災への追悼	新 規
主な対象	生徒、教職員	
内 容	2016年から、生徒の有志と教員が阪神淡路大震災への追悼式に参加している。 現地で震災についての聞き取りをして、被害の影響を感じることで、防災の重要性を感じることを目的としている。 また、その内容を全校集会で全体化をして全員の意識の向上を図っている。	

4-5	熊本地震、東日本大震災への募金や援助	新 規
主な対象	生徒、教職員、PTA、地域	
内 容	生徒(生徒会執行部と有志)と教員が、熊本地震への街灯募金活動を実施した。 ポスター作成や呼びかけ内容を考えるには、被害について詳しく知らなければいけない。その中で、防災への意識を高めることを目的としている。 学校前だけでなく、最寄りの駅で朝の出勤時に働きかけ、多くの募金を募った。 また、ヒューマンタウンフェスティバルでは、東日本大震災復興支援に向けて、物品販売も行った。	

4-6	防災学習、避難訓練の実施	継 続
主な対象	生徒、教職員、保護者、地域	
内 容	学期に1回、防災学習と避難訓練を実施している。 2学期は、880万人行動時、3学期は市の合同防災訓練と合わせて実施している。	

指標 5 根拠(エビデンス)に基づいた取り組みが行われている

1 外傷的側面

重点目標 1. 校内のケガの削減

根拠 1-1 授業でのケガは、体育が多い

授業でのケガは、63%で体育が最も多い。(図表 1-4)

特に、病院受診するようなケガは寒い時期に多くみられた。寒い時期の種目は、バレー・バスケット・サッカー・陸上競技・器械運動が多い。

また、残り 37%の体育以外のケガ、鼻血、実技中のケガなど多岐にわたる。(図表 5-1)

授業でのケガ(2015 保健室来室状況調査より)

図表 5-1

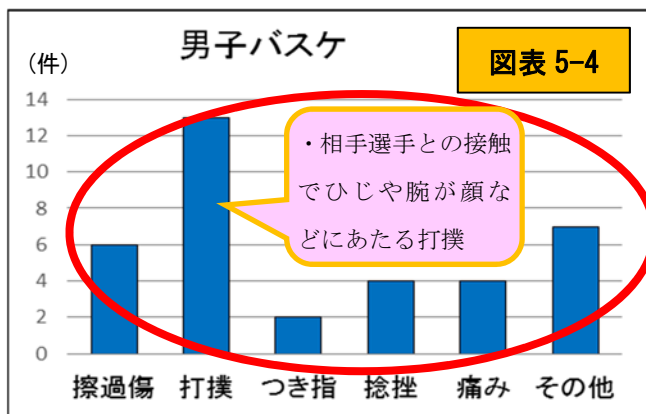
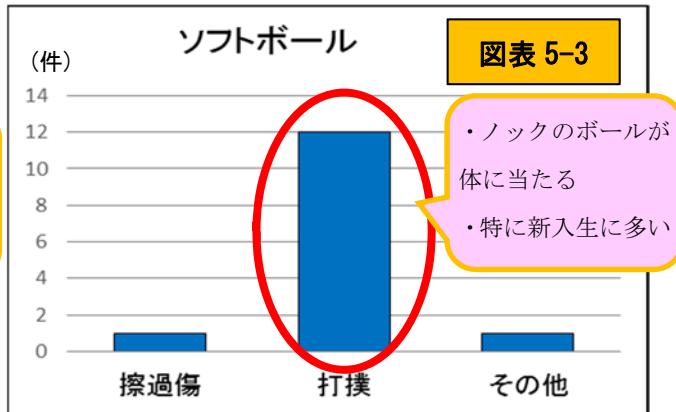
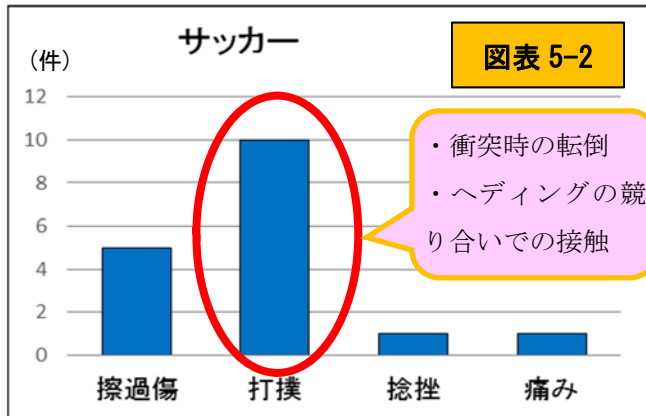
授業中	合計169件	特に多いけが
体育	107件(63%)	打撲、擦過傷
体育以外	62件(37%)	鼻血、実技中のケガ

5-1	授業中のケガ予防対策	新規
主な対象	生徒	
内 容	毎時間の体育の授業で、今まで以上の準備体操の徹底を行った。 体育だけでなく、技術家庭の実技や理科の実験中の注意事項、指示の徹底を図った。	

根拠 1-2 球技系の部活動では、打撲のケガが多い

部活動でケガが多いのは、球技系の部活動である。(図表 4-1, 2)
さらに、球技系の部活動では、打撲のケガが多い。(図表 5-2~4)

主な部活動における外傷発生件数(2015 年 保健室来室状況調査より)



5-2	球技の部活動での外傷予防対策	変更
内 容	バスケットボール部 ・シューズのひもを事前に確認する サッカー部 ・実践練習での打撲防止のために、レガースを着用する ソフトボール部 ・スライディングでの打撲、擦過傷予防のために、ハイソックス、サポーターを着用する 野球部 ・長ズボンを着用する	

5-3	外部講師招致による講習実施	新 規
主な対象	・サッカー部 ・バレーボール部 ・男女バスケットボール部 ・教職員	
内 容	外部から講師を招き、効果的なストレッチ方法について教えていただき、実際に体験した。 クラブ顧問も参加して、毎回のクラブ活動での継続とケガ予防の意識の向上に努めている。 年 1 回実施。	

2 心的側面

重点目標 2. コミュニケーション能力の向上

根拠 2-1 スマホでのコミュニケーションがトラブルになっている

近年は、スマートフォンでのコミュニケーションが活発になってきている。本校でのスマートフォン所有率は 72%(341 名)であり、それに起因するトラブルも確認されるようになってきている。

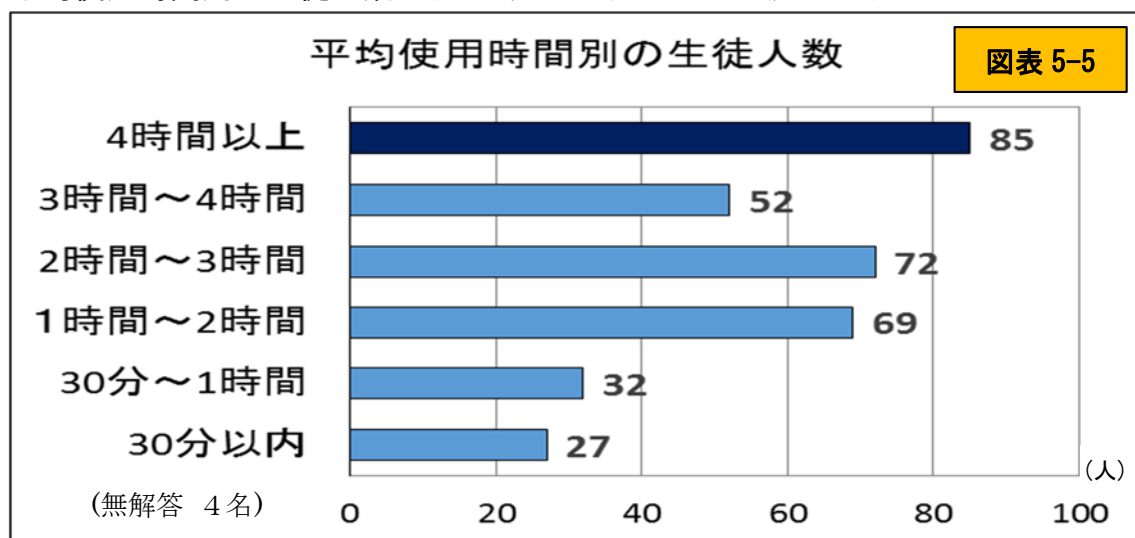
1 日に 4 時間以上利用している生徒が 25%(85 名)で一番多い。(図表 5-5)

また、LINE を使用する生徒人数が多いことから、連絡の手段は電話やメールよりも LINE が主流になっていることがわかる。(図表 5-6)

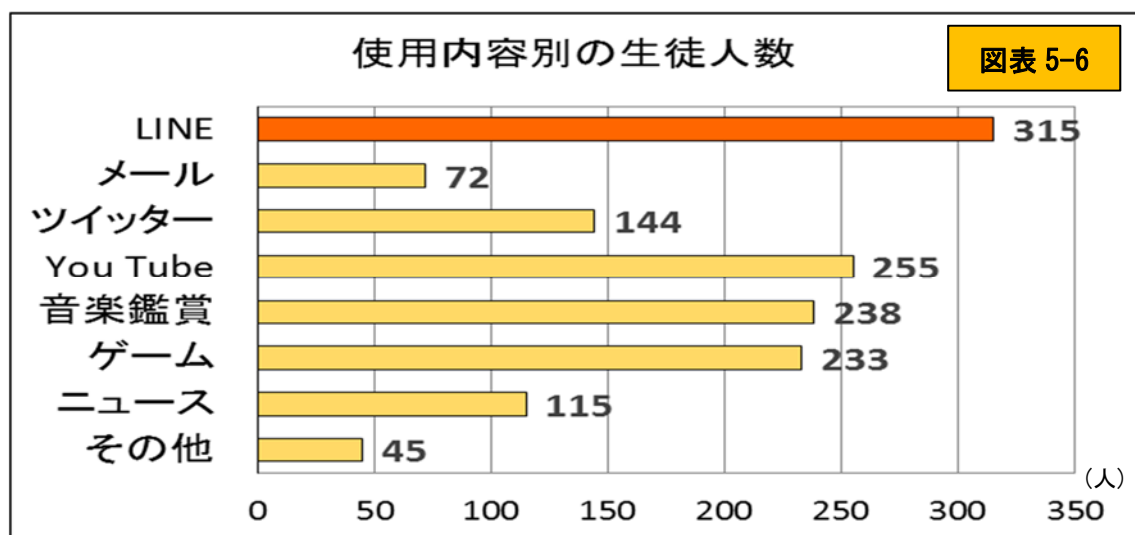
所有者の約 30%の生徒が「返信を苦痛に感じる時がある」と回答している。(図表 5-7)

特に、使用する生徒の多い LINE は、相手の既読確認ができるため、「返信がすぐに帰ってこない苛立ち」、「返信をすぐにしなければいけないプレッシャー」にもつながっている。また、グループでの書き込みが容易にできるため、誹謗中傷の書き込みからのトラブルも起こりやすくなっている。

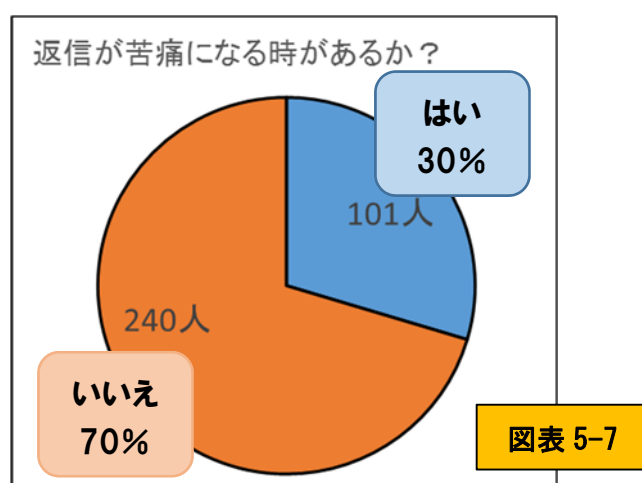
平均使用時間別の生徒人数 (2016 年 9 月全校アンケート調査より)



使用内容別の生徒人数 (2016 年 9 月全校アンケート調査より)



「返信が苦痛になる時があるか？」 (2016 年 9 月全校アンケート調査より)



5-4	外部講師による講演会の実施	新 規
主な対象	1年、教職員	
内 容	元サイバーパトロールモニター嶋田亜紀さんに講師として来ていただき、ネットトラブルの恐ろしさや対策を講演いただいた。 年1回実施。 生徒の感想 「居場所がわかってしまう恐ろしさを感じて、GPSの設定をやり直しました。」 「写真や書き込みが、後々自分に不利になることがわかりました。」	

5-5	スマホ依存に対するルールづくり	新 規
主な対象	生徒	
内 容	生徒会執行部が、小学校やPTAと協力して、携帯電話使用に関わるルールづくりを行っている。 また、啓発のために、校内の階段に掲示している。 「三中スマホルール」 ス いみん時間を大切に マ ナーを守って悪口を書かない ホ かのことをしながらさわらない 三中生徒会執行部作成 2016.10	

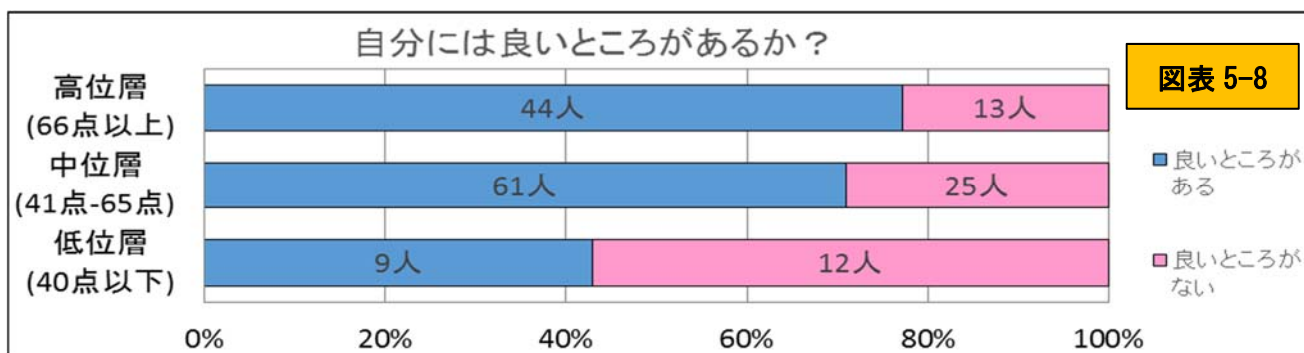
重点目標 3. 自己肯定感の向上

根拠 2-2 「自分の良さを感じる」と「学力」に、一定の関係がうかがえる

自己肯定感は、学力と相関関係があるといわれていることから、学力と自己肯定感の関係を調べた。

本校でも、やはり学力の低いグループになるにつれて、自分に対する評価が低くなることが見えた。(図表 5-8)

「自分には良いところがあるか？」(全国学力学習状況調査 2016 より)



以下の取り組みは、学力向上の取り組みである。学力を向上させることで、「勉強がわかって自分に自信を持てるようになる」ことをねらいにしている。

効果的な授業づくり、学習方法により学力向上を図ることで自己肯定感の向上につなげている。

5-6	班学習・班討論	継 続
主な対象	生徒	
内 容	日常の授業で、班隊形を積極的に活用している。 班長を中心に、教え合いや発表を行っている。班の意見を集約する中で培われる、コミュニケーション力の育成も大切にしている。	

5-7	ICT 機器の活用	継 続
主な対象	生徒	
内 容	タブレット、プロジェクターなどを使い、教員の授業力向上に企てている。 - 画像の活用などによる説明の可視化 - 板書を省略することでのテンポアップ	

5-8	少人数授業	継 続
主な対象	生徒	
内 容	3年生を中心に、国語・数学・英語の授業で少人数授業を展開している。 少ない人数で、基礎的内容の確認と定着を図っている。	

3 地域的側面

重点目標4. 交通安全の意識・技術の向上

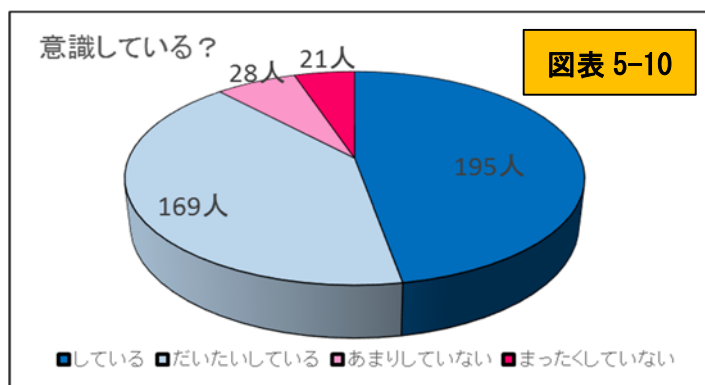
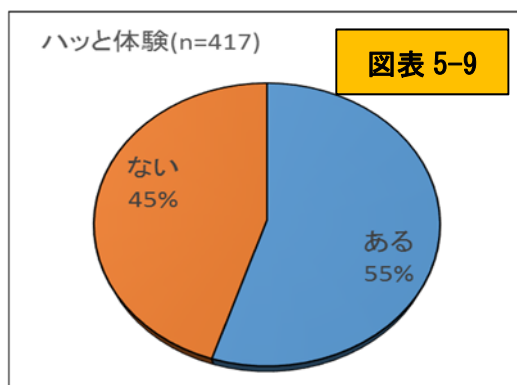
根拠3-1 半数以上の生徒が、登下校時に「ハッ」とした体験がある

本校は、全員が徒歩通学である。登下校時に、生徒の55%が「ハッ」とした体験があり、生徒の88%が広がって歩かないように意識していることがわかる。

「登下校時、ハッとした体験があるか？」

「登下校時、広がって歩かないように意識しているか？」

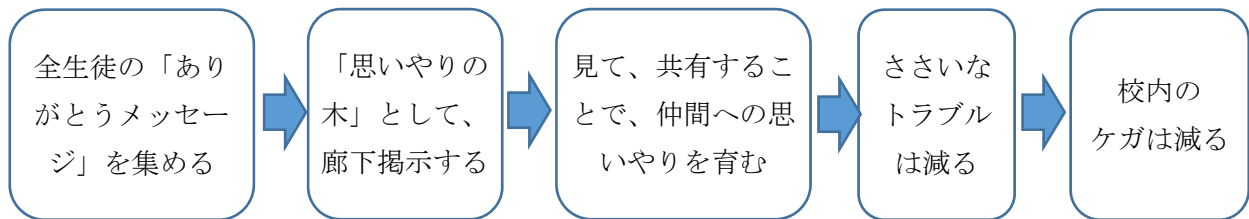
(2016年9月 全校安全アンケート調査より)



5-9	三中校区 交通安全ポイントマップ	新 規
主な対象	生徒、教職員、地域	
内 容	生徒会執行部が、校区の危険箇所を安全マップとして一覧にした。 危険箇所を整理して、把握をすることで未然防止につとめている。	

4 その他の取り組み

直接的には、重点目標につながらない取り組みもおこなってきた。
その1つは、「雰囲気づくり」である。例えば、



のように、間接的に重点目標につながる取り組みである。

「心を育てることで、ケガの未然防止につなげる」というねらいで、以下の取り組みをおこなってきた。



「思いやりの木」

5-10	生徒会専門委員会のISS活動	新規
内 容	生徒会執行部 - 活動全体の指示 ・スローガン、マスコット決定 学級委員会 ・チャイム着席運動 ・挨拶運動実施 生活委員会 ・廊下を走らない声かけキャンペーン 文化図書委員会 ・図書室ISSコーナー設置 ・ポスター作成 保健体育委員会 ・外傷の人数調査 ・グラウンド整備、石拾い 環境美化委員会 ・避難経路マップの作成 ・校内安全点検、美化 美術部 ・三中マスコットキャラクター原案作成 ・正面玄関の掲示 ・ISS 掲示板掲示 人権を大切にする会 ・思いやりの木の作成 ・熊本震災街灯募金など	

5-11	校区 ISS 子ども会議	新 規	
主な対象	生徒		
内 容	生徒会執行部が中心となり、小学校の児童会メンバーと会議を行っている。定期的な会合で、班に分かれて、各校の取り組みの交流とスマホのルールづくりを行ってきた。 学期に1回程度実施。		

5-12	壁新聞作成 「『ありがとう』という 思いを」	新 規
主な対象	生徒、地域	
内 容	生徒や地域の方々から、大切な人への思いを書いていただき集めた。壁新聞として職員室前廊下に掲示中。 人権を大切にする会が中心になって、活動した。	



5－13	壁新聞作成 「ほっとする町って、 どんなところ？」	新 規
主な対象	生徒、教職員、地域	
内 容	生徒が、松原市のイメージについて、教職員やフェスタに来られた方々にメッセージを書いてもらった。壁新聞として職員室前廊下に掲示中。 「人権」にこだわった三中の思い、町づくりを目指している。	

『ほっ』とする町ってどんな町？	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	
	

指標 6 外傷の発生や原因などを記録するプログラム(仕組み)がある

1 外傷的側面

重点目標 1. 校内のケガの削減

外傷的側面では、保健室が中心となって、外傷の発生件数を記録し、その減少や予防に努めている。

保健室利用カードを利用し、「ケガ」を個別に記録している。内容は、「いつ」「どこで」「どのように」「なにをされていて」「どんな」「どこを」を集計している。

けがの種類	記録方法	頻度
保健室来室のケガ	保健室利用カード、「えがお」を使って、養護教諭が情報の収集、処理を行う。	毎日データを入力
休日部活動中のケガ	対応した教師がファイルに記録する。	
病院受診したケガ	災害医療費請求するために、市教育委員会・日本スポーツ振興センターへ申請を行う。	月ごとに集計



ケガの発生件数の減少と予防がされているか

例 1 保健室利用カード

保健室利用カード

月 日 時 分 年 級 名前

上記の生徒は、

- ・頭痛 腹痛 吐き気 だるい 鼻水 せき ふらつく
- ・けがの手当てをする
- ・その他 ()

担当教師サイン ()
職員室教師サイン ()

【保健室→学級連絡票】 上記の生徒についてお知らせします。

来室理由

主訴・症状 ()

検 査 ()

原 因 ()

連絡事項

① 処置が済みました。教室に帰しますので経過観察をしてください。

② 保健室で休養させました。

③ 帰宅させた方がいいと思います。家庭連絡をお願いします。

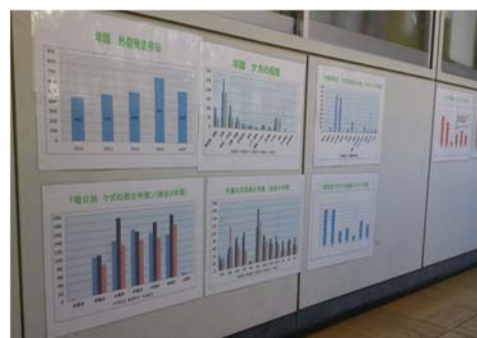
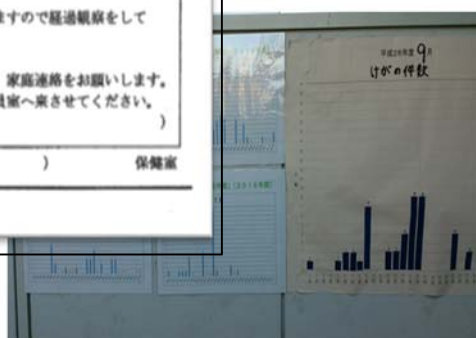
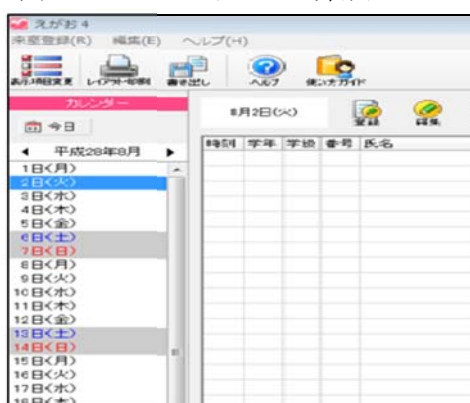
④ 早退します。帰る用意をして職員室へ来させてください。

⑤ その他 ()

在室時間 (: ~ :) 保健室

【教科担当 () → 担任】

例 2 えがお(データ集計ソフト)



2 心的側面

心的側面では、暴力・暴言・不登校、ネットトラブル、人間関係での課題について、定期的な調査を行い、各学年で取り組みの検証をしている。

種類	記録方法	頻度
暴力・暴言トラブル	社会性測定用尺度調査	学期に1回
	全国学力・学習状況調査	3年生1回
	学校自己診断	12月に1回
	人権学習、道徳での感想	単元毎
	校内生徒指導調査	月に1回
	生徒会、班長会議	月に2回程度
不登校	不登校支援会議	月に1回
	社会性測定用尺度調査	学期に1回
	長期欠席者調査、校内生徒指導調査	月に1回
	欠席者調べ	毎日
ネットでのトラブル	社会性測定用尺度調査	学期に1回
	学校自己診断	12月に1回
	人権学習、道徳での感想	単元毎



コミュニケーション能力、自己肯定感の向上が正しく図れているか

3 地域的側面

地域的側面では、地域への安全技術・意識の向上について、登下校の安全、自転車事故の予防、調査などをもとに、取り組みの検証をしている。

種類	記録方法	頻度
登下校時の安全	交通安全アンケート	年に2回
自転車事故の予防	交通安全アンケート	
地震への対応	学校自己診断	12月に1回
	防災アンケート	年に2回

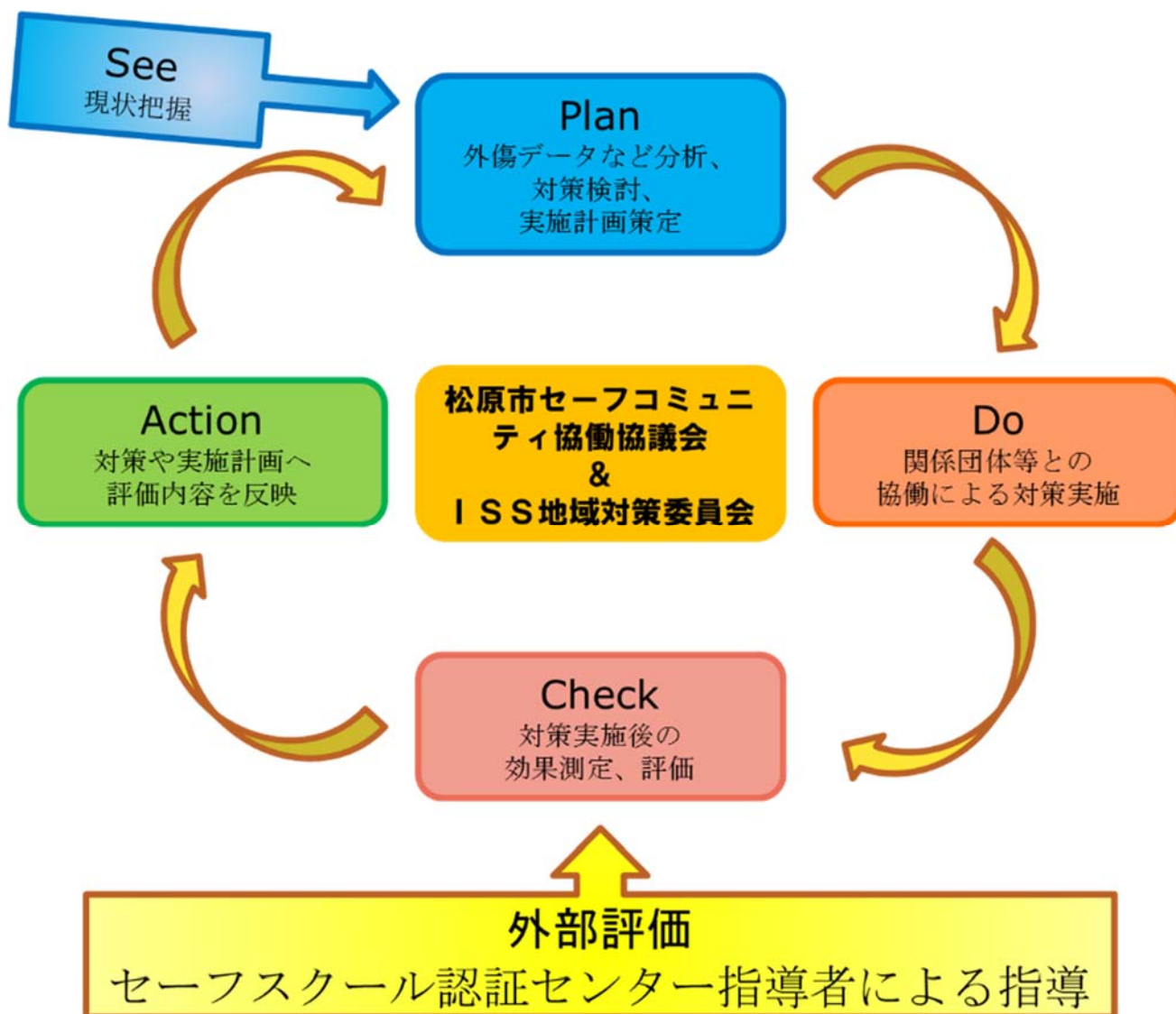


交通安全の意識・技術、防災の意識が高まっているか

指標 7 学校政策、プログラム、そのプロセス、変化による効果を測定・評価する方法がある

プログラムの進行管理は、本校の ISS 校内推進委員会が中心となっており、松原市セーフコミュニティ協働協議会や ISS 地域対策委員会からの、評価指標に基づいて効果を確認している。

1 全体のイメージ図



2 短・中期、長期の評価指標

外傷的側面			
	1. 校内のケガの削減		
	授業中のケガに対する取り組み 3-1,2 5-1	部活動中のケガに対する取り組み 3-1,2 4-1 5-2,3	休み時間中のケガに対する取り組み 3-1,2,3
短期 意識の変化を評価する指標	学校自己診断 「よくケガをすることがあるか？」 「ケガをしないように気をつけているか？」		
中期 行動の変化を評価する指標	保健室利用カード保健室来室状況調査 「保健室への来室数」		
長期的な変化を評価する指標	保健室利用カード 保健室来室状況調査 「授業中のケガの件数」	保健室利用カード 保健室来室状況調査 「部活動中のケガの件数」	保健室利用カード 保健室来室状況調査 「休み時間中のケガの件数」
改善方法	・授業での予防対策	・講習 ・顧問による未然防止	・生徒による啓発活動

心的側面		
	2. コミュニケーション能力の向上	3. 自己肯定感の向上
	コミュニケーション能力の向上に対する取り組み 3-5～10 4-2,3 5-4,5	自己肯定感の向上に対する取り組み 3-11～17 5-6,7,8
短期 意識の変化を評価する指標	社会性測定用尺度調査 「相手の気持ちを考えて行動しているか？」 全国学力・学習状況調査 「話し合いの活動でしっかり聞き、しっかり伝えているか？」	社会性測定用尺度調査 「自分に良い所があるか？」 学校自己診断 「自己肯定感について」 全国学力・学習状況調査
中期 行動の変化を評価する指標	人権学習・道徳での感想 長期欠席者調査「欠席数」 校内生徒指導調査 「問題事象件数・器物破損件数」 欠席者調べ「欠席者数」	全国学力・学習状況調査 長期欠席者調査「欠席数」 校内生徒指導調査 「問題事象件数・器物破損件数」 欠席者調べ「欠席者数」
長期的な変化を評価する指標		
改善方法	・いじめ認知時の組織づくり ・ソーシャルスキルトレーニングの実施	・人権尊重の教育活動の充実 ・生徒会専門委員会の取り組み

地域的側面

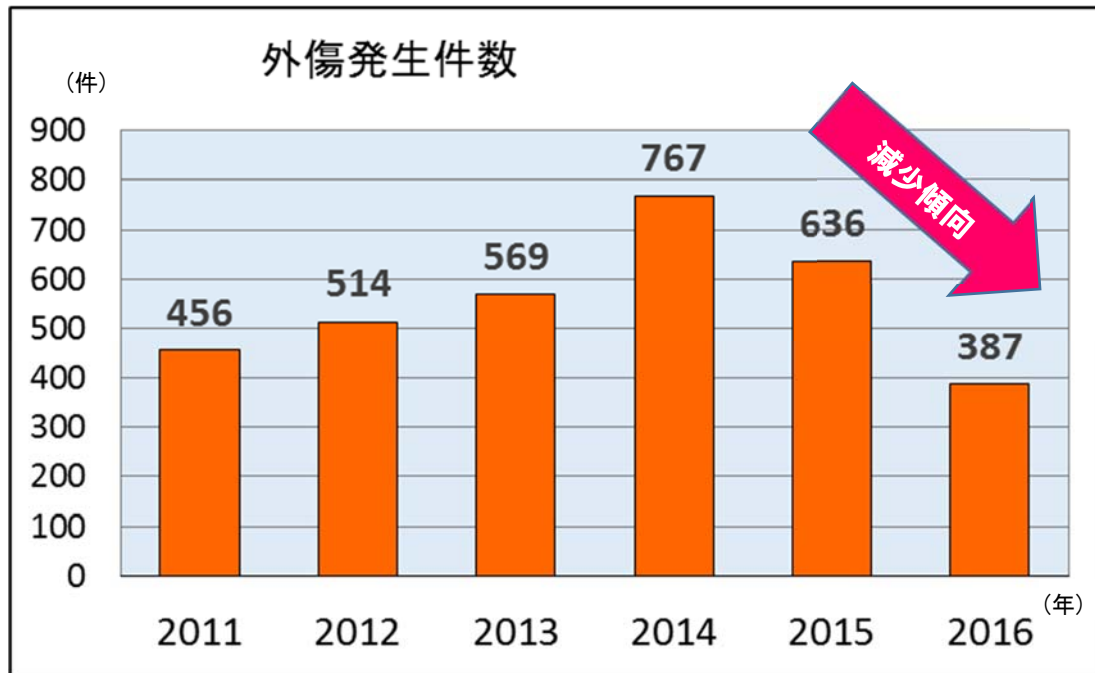
	4. 交通安全の意識・技術の向上	5. 防災の意識の向上
	交通安全の意識・技術の向上に対する取り組み 3-18~19 5-9	防災の意識の向上に対する取り組み 4-4~6
短期 意識の変化を評価する指標		
中期 行動の変化を評価する指標	交通安全アンケート 「交通ルールを守っているか？」 「登下校時、ひろがって歩いていないか？」 「最近、事故に遭ったか？」	学校自己診断 防災アンケート 「防災対策をしているか？」
長期的な変化を評価する指標		
改善方法	・保護者、地域との啓発活動 ・保護者、地域との啓発活動 ・安全講習会の実施	・指導内容の改善、精選 ・防災学習の時間の確保

3 成果

成果1 外傷が、全体的に減少している

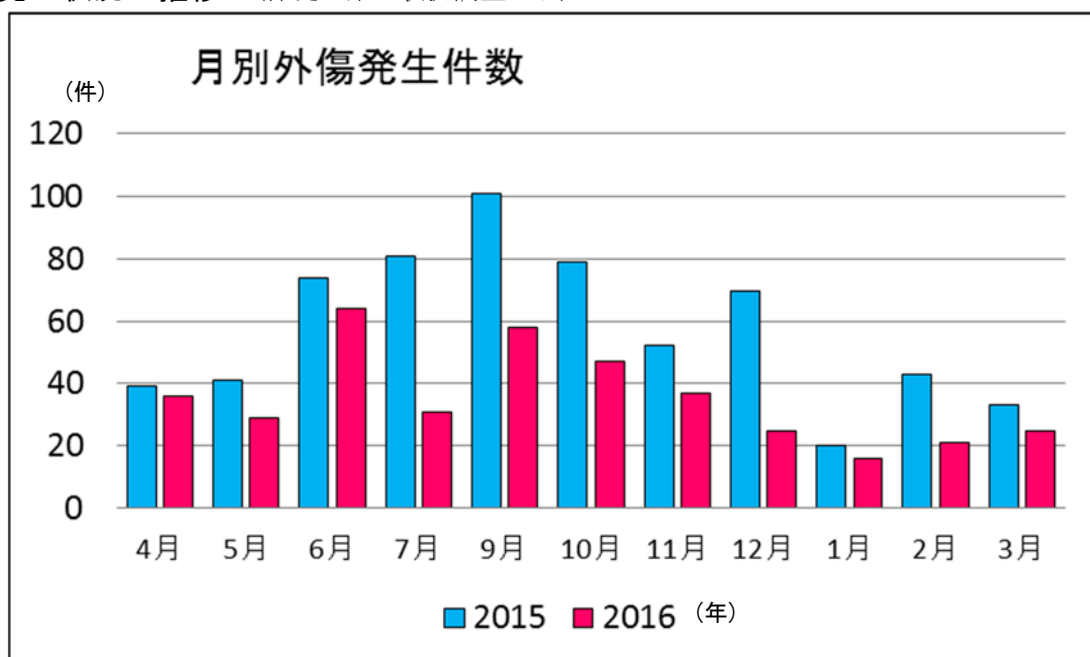
部活動や体育の授業、生徒会等による予防の取り組みにより、2015年に、ISSの取り組みを行ってから、2年間でほぼ半減した。

外傷の発生状況の推移（保健室来室状況調査より）



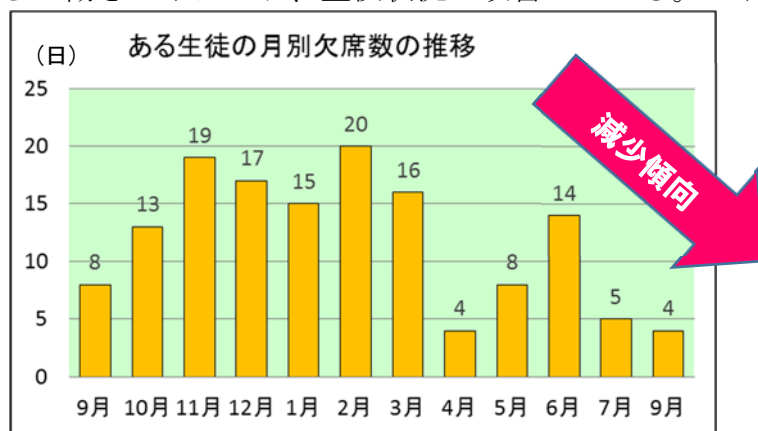
成果2 外傷が、月別でも減少している

外傷の発生状況の推移（保健室来室状況調査より）



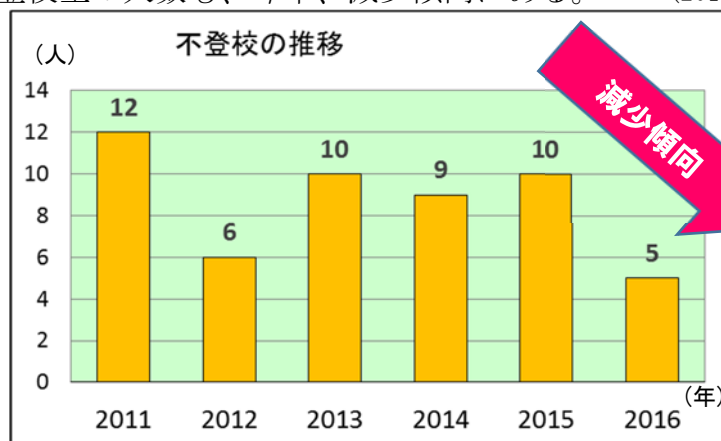
成果3 不登校の生徒が、登校できるようになった

不登校について、ある不登校生は、この2年間で、担任の本人への指導と、保護者、周りの仲間からの働きかけにより、登校状況が改善している。（2016年校内生徒指導調査より）



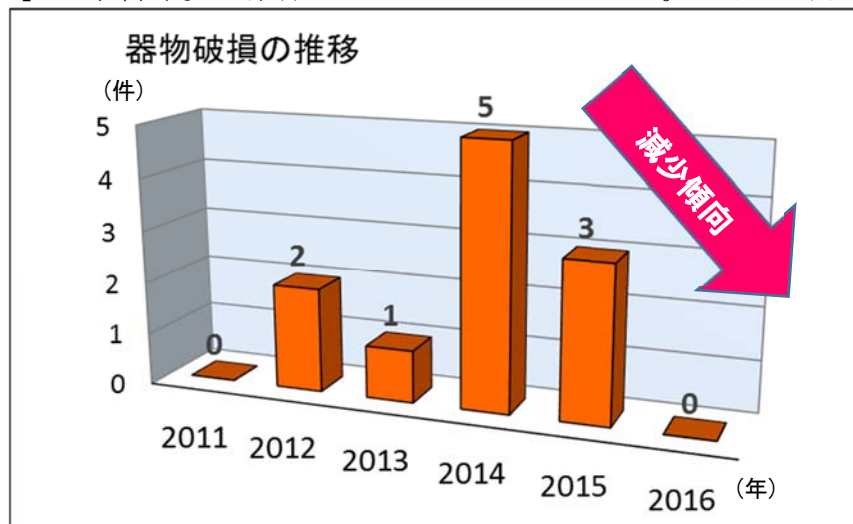
成果4 不登校数が減少している

全体の不登校生の人数も、今年、減少傾向にある。（2016年校内生徒指導調査より）



成果5 安全な環境が保たれている

器物破損について、今年、現状、器物破損が起こっていない状況である。今年度、一定「安全で安心」な学習環境が確保させていることがわかる。（2016年校内生徒指導調査より）



指標 8 地域内、国内、国際的なネットワークに継続的に参加する

■ 2015年

5月21日（木）ISS取組着手宣言（澤井松原市長、白石さん参加）

9月 1日（火）校区研修会：日本セーフコミュニティ推進機構 白石陽子さん

9月 5日（土）ISS活動報告会に生徒30名参加（松原市文化会館）

10月 6日（火）神奈川県厚木市認証取得小学校視察

12月18日（金）全校生徒向けISSアンケート実施

■ 2016年

1月19日（火）ISS会議 松原市役所（市教委、松原三中、中央小、布忍小、）

2月 1日（月）各専門委員会で取り組み論議

2月 4日（木）東京都豊島区スクールサミット参加（市教委、布忍小、松原三中）

3月20日（水）ISS会議 松原市役所（市教委、松原三中、中央小、布忍小、）

5月16日（月）白石さん来校地域教育協議会とISSについて研修

6月27日（水）職員会議にて課題発見のためのグループ討議実施

7月29日（金）東京都豊島区より、三中校区中央小に訪問

9月 4日（日）市SC活動報告会で、生徒会執行部がISS報告（松原市文化会館）

11月 5日（土）校区フェスタにて、ISS校区子ども会議の活動報告

11月11日（水）校区研究発表会にて、SS校区子ども会議の活動報告



第5章 現在の問題点と今後の方向性

現時点では、**指標1～5**に関して次の問題点があげられる。今後に向けて、それぞれ方向性を設定し、取り組んでいる。

課題	→	方向性
----	---	-----

指標1 協働を基盤とした安全向上に取り組む運営体制が整備されている

- ・教員の異動により、継続が難しい
- ・教員の若返りにより、ていねいな指導が難しい



- 生徒を通じた継続性の確保
- マニュアルの作成

指標2 取り組みの方針(政策)は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会の方向性と一致している

- ・教員にとって、方向性を一致させるための打合せなどの時間的制限がある



- 必ずしも打ち合わせに参加しなくても方向性を一致できる仕組みの構築

指標3 すべての性別、年齢(学年)、環境、状況をカバーする長期かつ継続的な予防活動をしている

1 外傷的側面

- ・保健体育の授業中や、クラブ活動中のケガは減っているが、いまだ起きている。
- ・新1年生への働きかけは、組織的にはできていない。

2 心的側面

- ・コミュニケーション不足によるケンカやトラブルは減少したものの、いまだ起きている。

3 地域的側面

- ・交通安全に対する取り組みが継続的に行えていない。
- ・防災に対する取り組みを継続的に行えていない。
- ・防災に対する生徒の意識が低い。



1 外傷的側面

- ・ケガ発生率のさらなる減少
- ・安全意識に取り組む姿勢のさらなる向上
- 定期的な安全講習
- 生徒会による意識の向上に関する取り組み

2 心的側面

- ・不登校の減少
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・信頼関係のさらなる向上
- 人権総合、道徳のカリキュラムの確立
- 自己肯定感向上を確信させる取組
- 関係機関と連携した生徒指導体制確立
- 低中位層の学力向上の取組

3 地域的側面

- ・自転車でのケガ防止と交通安全の意識向上
- ・地域への関心のさらなる向上
- ・校区小学校と連携した活動の充実
- 定期的な交通安全講習
- 定期的な防災に対する取り組みの充実
- 本校生徒会と小学校児童会の交流

指標 4 ハイリスクのグループを対象としたプログラムがある

- ・教員の異動により、継続が難しい
- ・教員の若返りにより、ていねいな指導が難しい
- ・日々の授業や生徒指導などとの両立が難しい



- 生徒を通じた継続性の確保
- マニュアルの作成
- 会議の精選などによる校務のスリム化

指標 5 根拠（エビデンス）に基づいた取り組みが行われている

- ・根拠となるデータの収集分析に労力を要する
- ・データ分析をして、方針を立てることに手間がかかる



- 効率的なアンケートの実施
- 長期休業でのデータ分析と方針立案